

前 橋 文 化

比刀祢

64号



臨江閣「別館」

— も く じ —

巻頭言

子どもたちの学校文化のかたち／まえばし学校フェスタ／

前橋市教育委員会教育長 塩崎 政江

1

協会活動

◆前橋市文化協会総合文化祭

2

◆「まえばし和の文化の集い」(臨江閣開館記念事業)

4

◆「文化協会トピックス」

4

ふれあい体験事業

5

茶道／華道／邦楽／大正琴／日本舞踊／剣舞／民謡民舞／詩吟／八木節／連句／俳句／香道／
ふれあい作品づくり

部会だより

9

書道／美術／写真／映像／茶道／華道／音楽／バレエ／邦楽／大正琴／日本舞踊／吟剣詩舞道／
民謡民舞／八木節／郷土芸能／歴史／短歌／俳句／川柳／漢詩／演劇／自然趣味／民族舞踊／居合道

支部だより

22

大胡支部／宮城支部／粕川支部／富士見支部

☆平成二十九年度役員等名簿

24

☆平成二十九年度賛助会員名簿

25

☆平成三十年度第四十一回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

26

☆第五十二回市民展覧会入賞者一覧

27

☆お知らせ・新入会員紹介・比刀祢編集委員・編集後記

明 説 紙 表

臨江閣

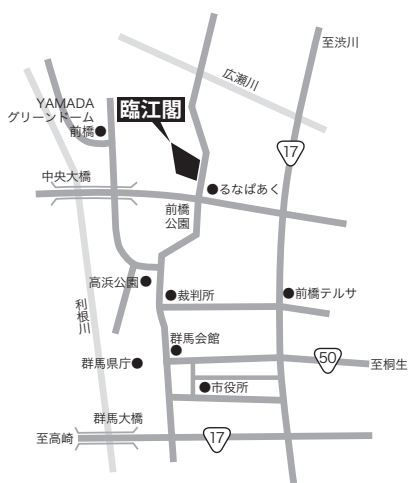
臨江閣は、本館・別館・茶室からなる近代和風の木造建築物。

本館は数寄屋風建築で、当時の群馬県令榎取素彦の提言により、初代前橋市長下村善太郎を始めとする地元有志や銀行等の企業の寄付で明治17年に迎賓館として建てられ、明治天皇を始め、多くの皇族が滞在している。

別館は、明治43年に前橋で開かれた一府十四県連合共進会の貴賓館として建てられた書院風建築である。

茶室は、平成20年の全国都市緑化フェアに際し、榎取素彦の雅号「こや 畊堂」に因み畊堂庵と命名された。

本館と茶室は県の重要文化財に、別館と渡り廊下は、市の重要文化財に指定されている。



題字：前橋市長 山本 龍
表紙：臨江閣「別館」
撮影：穂坂 昭

子どもたちが様々な学校教育の中で、先人の多様な文化を学び、自己表現の意欲を高め、そのためのスキルを獲得し、友達と一緒に新しい価値（文化）を創り出しています。それが、前橋の学校文化です。「来て！見て！感じて！」わたしたちの学校文化！」というキャッチフレーズのもと、『まえばし学校フェスタ2017』が、十一月十八日（土）十九日（日）の二日間、前橋プラザ元氣21で開催されました。今年で八回目となります。

真。市内の全小中特別支援学校、公立幼稚園、市立前橋高校の、それぞれの特色を伝える一枚の写真。年々豊かな子どもたちの表情が増えてきて、「うちの学校はいいだろう！」と、胸を張っている子どもたちや先生方の姿が目につかびます。また、オースト

来場者に伝えており、世界に羽ばたこうとする意欲が感じられます。さらに、中学生による茶道のてなし、パソコンのお絵かき、ロボコン実演、紙芝居など、運動部活とは異なる中学生の文化活動の披露の場もたくさんありました。今年ステージ発表では新

「成果を発表する場がほしい」という子どもの声から、出場を決定したのだそうです。子どもたちは役になりきって楽しそうに表現していました。来場者から大きな拍手を受け、自信と誇りを持つことができたと自覚しています。また、ある小学校のほたる委員会の取組。

化であると言えるでしょう。まえばし学校フェスタは、市民に知っていただく機会が少ない学校文化を、できるだけたくさんの方に見ていただきたいという思いでスタートしました。学校フェスタは、このことに賛同して下さった市内の六つのロータリーク

子どもたちの学校文化のかたち／まえばし学校フェスタ／



前橋市教育委員会教育長 塩崎 政江

ラブの心強い協力のおかげで可能となりました。来場者からは「子どもたちの成長が感じられる」「貴重な交流の機会」等の声をたくさんいただきました。改めて、学校には幅広く多様な深い文化がある

小学生の合唱

や中高生の吹奏楽のステージ発表、絵画や書道の展示は、毎年素晴らしい内容で来場者の目を引いています。でも、その他にも、この学校フェスタならではの発表の場がたくさんあります。

まず、学校自慢の一枚の写

ラリアへ海外研修に行った生徒たちの報告コーナー。実際に海外で生活してみてもわかったことや調べてきたこと、改めて感じた日本の文化の素晴らしさなどを、パネル展示の他、「私の研修成果をぜひ聞いてください」と研修生が直接

たな学校文化の一面が見られました。一つは小学校の音楽クラブによる音楽劇の発表。小学校のクラブ活動は月一回程度と活動時間は少ないのですが、自分の興味・関心のあ

スクリーンに映し出された写真と子どもたちの生の声。委員会活動の意義や継続する必要性、考え工夫し苦労したことなど、子どもたちは自分の言葉でいきいきと発表していました。様々な委員会活動も、各

と感じます。その中で子どもたちは、生涯にわたる文化活動の芽を育んでいきます。今後も、前橋の文化の中心的な担い手である文化協会の皆様に、この子どもたちへの指導・支援をお願いいたします。

舞台部門

平成二十九年度前橋市文化協会総合文化祭舞台部門の発表が開催され、会員が一同に会し、相互理解と親睦を深め



ました。総合文化祭は、二月二十四日、二十五日の二日間、（舞台部門二十五日のみ）昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）で開催されました。二十五日午前九時三十分より大ホール舞台において開会式典を行い、式典には、主催者として、市長さんを始め文化協会長、役員が出席、来賓に、前橋市市議会議長さん、前橋市教育長さんをお迎えして開催、終了後午前十時より、前橋、大胡、粕川、富士見の各支部より、各地域の特色を出しながら、子どもさんから大人まで、歌、踊り、



コーラス、フラダンス・八木節、太鼓等々色とりどりの衣しょう姿で、日頃の練習の成



総合文化祭 部門実施報告

果を思う存分発表、会場を樂しませてくれました。ありがとうございました。発表団体は五支部から三十四団体、約四五九名が出演され親睦を深めました。時間に制限あり今回出演できなかった方、団体の皆さんには次回をお待ちしております。発表会の準備には、会員の皆さんのご理解とご協力を得ながら、参加団体の把握、プログラム編成、各係分担のお願いし、当日を迎えられました。特に、舞台係担当の皆さんには、プログラム進行のために、最初から最後まで、舞台づくりに頑張っ



ていただき感謝申し上げます。総合文化祭を開催するに当たり、各支部の会員さん、発表される人、各役員の方、事務局の皆さん等、多くの関係者の皆さんのご理解・ご協力なくしてできません。今回は、ご指導、ご協力、ご理解が得られて開催できましたことを心よりお礼申し上げます。三十三年度の前橋市文化協会総合文化祭が会員の皆さんのご理解、ご協力得ながら継続し、発展することを願っております。

坂本 實



展示部門

平成二十九年度前橋市文化協会総合文化祭、展示部門は二月二十四日（土）、二十五日（日）の二日間、昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）の大・小展示ホールで開催されました。

今年度の展示作品は、美術

部門六団体七十二点、書道部門二団体十六点、写真部門三団体五十一点、文芸部門三団体三十点、工芸部門二団体八十八点、合計、二百五十七点が出品されました。

会場内では、各団体のご協力のもと、観賞しやすい配置や全体的なバランスなどに留意しながら和気あいあいに工夫を凝らした作品展となりました。展示期間の二日間で六百五十五人をこえる来場者が

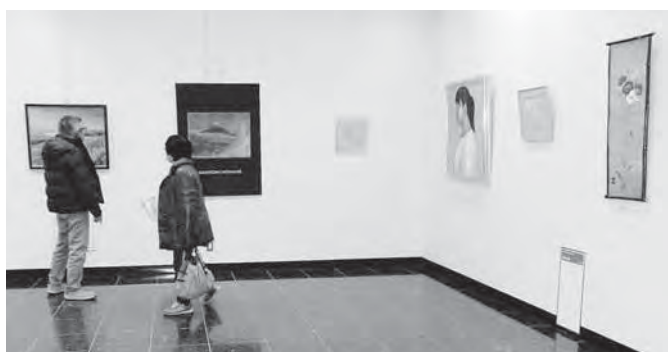
前橋市文化協会 舞台・展示

あり多くの方々に観覧していただきました。

この文化祭は、常日頃の皆さんの成果を発表する良い機会であり、各団体の交流により、お互いに学びあう場ともなりました。

開催にあたり、ご指導、ご協力いただきました役員、各団体、事務局の皆様にご感謝とお礼を申し上げます。

渡邊 正義



「まえばし和の文化の集い」 （臨江閣開館記念事業）

平成二十九年度の「まえばし和の文化の集い」は、臨江閣の大規模改修事業が完了したことに伴い、八月十九日に臨江閣開館記念事業として開催いたしました。

臨江閣別館や庭園の全面的な改修工事は、平成二十八年三月に着工し、二十九年八月までの一年四か月の期間を経て、明治の創建当時の姿が蘇りました。

前橋市文化協会が主催する「和の文化の集い」は、例年、臨江閣を会場として行われてきましたが、昨年度は改修工事のため開催ができませんでした。本年度は、本館・別館ともに各部屋の空調設備も完全に整い、素晴らしい環境の中で臨江閣のオープニングセレモニーとして開催することができました。

新たな門出となった開会式は、「八木節部会」が明るく、にぎやかな演奏で盛り上げま

した。式典には、市長や市議会議員、前橋商工会議所会頭をはじめ、多くの工事関係者・経済界の方々が参加し、新設されたデザイン性豊かな門扉の除幕式も加えて華やかに行われました。

その後、別館二階大広間で臨江閣整備委員であり、群馬県文化財保護審議会専門委員の村田敬一氏の「臨江閣の建築」と題する記念講演が行われ、改めて臨江閣の歴史的建造物としての価値と全国にも誇れる貴重な文化遺産としての認識を深めることができました。

次に、別館大広間では、「臨江閣リニューアルオープンコンサート」が行われました。前橋市出身の著名なオペラ歌手である角田和弘氏の外五名のオペラ歌手、ピアノリスト、フルート演奏者による素晴らしい歌声と演奏が披露され、超満員の観客から大きな賛辞



が贈られました。文化協会にとっても臨江閣にとっても新たな試みでしたが大成功で、今後の新たな活用の可能性も見出すことが出来ました。本館で行われた茶席は、終日大盛況となりましたが、「茶道部会」の皆さんの気配りとおもてなしにより無事終了することが出来ました。「華道部会」の生け花展示は、別館和室等で行われ、各流派の素晴らしい作品が展示され、格調の高さを披露することとなりました。

午後は、別館二階大広間で、「大正琴部会」「日本舞踊部会」「民謡民舞部会」「邦楽部会」「居合道部会」の舞台発表が行われ、いずれの舞台も大広間が満席状態になり、多くの市民の皆さんに文化協会の誇る和の文化を楽しんでいただきました。

今年度は晴天にも恵まれ、延べ二千五百人に及ぶ入場者があり、臨江閣にふさわしい和の文化の集いが大きな成果を得て終了し、市民の皆さんに楽しさや感動を味わっていただけました。実行委員をはじめ関係者の皆さんのご尽力に深く感謝申し上げます。

「文化協会の取り組み」

前橋市民文化会館は、前庭も含めた改修工事を終了し、本年度から文化協会の主要事業である市民芸術文化祭や総合文化祭を開催することができるようになりました。そこで、前橋市文化協会も新たな取り組みを進めています。

その一つがホールの玄関先の本製の大きな立て看板の設置です。書道部会の西林乗宣先生に揮毫をお願いし完成しました。

もう一つは、二階の一部屋を全面改修し、文化協会専用の事務室を構える準備をしています。平成三十年四月には、文化協会事務局の組織改革も含め、新たなスタートを切ります。文化協会の会員の皆様の親しみやすい事務局の運営を図りながら、前橋市の一層の芸術文化の振興に努めたいと考えています。



ふれあい体験事業

茶 道

今年のふれあい体験教室の担当は江戸千家でした。八月五日は十六名、六日は十七名の参加者でした。親子での参加や中学校の部活動としての参加もありました。

まず、「茶道」ってなあに？クイズを交えてお話をしました。次にあいさつ、座り方の練習をしました。いよいよ茶室に入り、お点前を体験。お菓子とお茶のいただき方を練習し、自分でお茶を点ててみました。初めて茶筌を持つ人がほとんどでしたが、皆、上手に点てることができました。自分で点てたお茶を飲み、「おいしい！」と楽しそうでした。お茶をお客様に運ぶ練習をしました。ごあいさつも、きちんとできました。

修了証を渡して無事終了しました。皆さん

「お菓子とお茶がおいしかった。」

「楽しかった。」と言って下さって、私達にとってもとても楽しい体験でした。



この体験が二〇二〇年の「お・も・て・な・し」につながることを期待しています。

富澤 宗晶

華 道

午前十四名、午後八名（キャンセル各三名）。小原流、花芸安達流の先生方の担当で体験教室が行われました。応募された皆さん、この日を首を長くし、楽しみに待っておられた様子で緊張しながらも

目は輝いておりました。缺の持ち方、剣山の扱い方、枝の切り方、力の入れ方などを指導、飾りたい場所を考えてス

タイルを決め、それからスタート致しました。お花の名前を覚えながら一本一本丁寧に剣山（花留）にそれはそれは楽しそうに賑やかに取組み、出来上がった自分の作品に満足しておりました。怪我もなく終了出来まして安堵致しました。日本の伝統のいけばなの真の姿を感じ取って頂けたと思います。

この体験を機に暮らしの中にいけばなを飾る心の余裕を持ち継続して伝統のいけばなの普及の一助になることを望みたい。その指導に携われた私達も幸せを感じました。



午前の部、赤芽柳、ガーベラ、ドラセナゴットセフィア、午後の部、ニューサイラン、バラでした。

柳井 具子

邦 楽

こどもおこと教室

この度ふれあい教室では私共の会に二十名の参加者がありました。予想した以上に人数が多く、経験者の参加者もいて講習会でレベルの高い曲に挑戦することができました。

参加者の年齢は六歳から十一歳までの女子と、六歳と七歳の男子と、四十歳代のお母様方と七十歳代のお祖母様でした。一回二時間の講習を五日間、七月と八月の二ヶ月に渡って実施致しました。

模範演奏では、宮城道雄作曲の「さくら」「春の海」「スタジオリブリの曲」など幅広い選曲を試みてみました。講習会では、初心者Ａグループとし、経験者をＢグループとし、グループ別に講

習を進めま

した。Ａは、親指の基本奏法を主として「さくら」と「糸車」を習つて頂き、Ｂは中指と親指を使う合わせ爪や、左手の指ではじく奏法が入った「荒城の月」と「五木の子守唄」が弾けるようになりました。充実した内容の講習ができ、参加者の方々がとても前向きに楽しんで下さり、私共もやりがいのある講習会となりました。

川端 光永

長唄三味線教室

三回目となる今回のふれあい体験教室は、四月・五月の土曜日に六回行われ、三十七名もの参加者が三味線にふれて音を出すことに夢中になり、ワクワクした心が会場いっぱいに溢れていきました。

「さくら」「荒城の月」等耳にある曲が弾けはじめると参加者の心は一段とはじけました。まさに「ウオッー」という感じです。



らの六日間
の教室。あつ
という間に
終了の日を
迎えます。



です。みなさん真剣にお互いの演奏を聴きあい、拍手し、めでたく修了式を迎えました。

「楽しかった!」「とても為
になった」とのお声を頂き私
も「さあ次回も頑張る」と決
意を固めるのです。次回はも
うすぐです。四月・五月に開
かれます。多くの御参加をお
待ちしています。私共は参加
された方に、三味線を無料で
お貸しだしています。

（御協力をお願い）身近に、
不使用の三味線等をご存知で
したらお声をおかけ下さい。

大正琴

平成二十九年
度前橋文化協

事業は、六月二十四日（土）から始まり九月二日（土）までの間七回の講習で実施され、大正琴部会も昨年に続いて参加させていただきました。今年も前橋市総合福祉会館第四コミュニティセンターにて開講され、成人、子供合せて十数名参加でスタートしました。今回の練習曲は群馬の教育に多大な功績を残し又多数の童謡を生み作曲家としても知られた、旧勢多郡東村の名誉村長石原和三郎先生の皆様ご存知の曲で「おぼろ月夜」と「うさぎとかめ」その他を練習しました。参加者の皆さん今迄になく上達が早いので先が楽しみです。九月二日（土）最終回には皆さん揃って演奏できた。

九月十日
ふれあい
体験の成
果を見て
いただく
第八回前
橋こども
芸能座の



発表会です。当日始めて舞台に立つ子供さん達は緊張しているだろうと思いがかりハーサルに入りました。心配もよそに皆さん堂々としていて小学二年生の男の子供さんは大きな声で歌を上手に唄いました曲は「おぼろ月夜」「うさぎとかめ」です。大正琴三味線キーボード歌と色々取り入れて賑やかな舞台になりました。各関係の皆様協力いただき大変お世話になりました。

岩井田みき子

日本舞踊

「ふれあい体験日本舞踊教室」は今年で十六回目となり八月五日より七回、十一名の参加で行いました。今回は童謡「さくらさくら」と長唄小曲「千代紙の花」可愛い二曲をお扇子で踊ります。

体験教室ですから、伝統文化に触れてもらうことで十分な価値があります。その上に昌賢学園まえばしホールでの発表の機会をいただいています。

す。はじ
めは思う
ように踊
れませんが、
できないこ
とを繰返
しお稽古
して覚えて
いきます。



その成果は九月十日「まえばし子ども芸能座」と十月二十九日「日本舞踊のつどい」の舞台で披露されました。どちらも元氣良く、揃って踊ることができました。

発表のためには楽しくない
 思いもあるかなと心配になる
 こともあります。当日はもう
 見守ることしかできません。
 幕が下りた時の子どもさん達
 のやり切った笑顔は、本当に
 良かったと思う瞬間で
 す。毎回お話をいただく皆
 様のおかげです。感謝を申し
 上げます。

若柳 糸駒

劍舞

大人を対象にした剣舞教室

は今年が二回目で十人の応募がありました。その中で三人は去年体験した方で剣舞の楽しさを理解して下さった証で大変嬉しく思いました。練習する前橋中央公民館のスタジオは十人が一緒に刀を振り廻すと危ないと思う程で、五人ずつに分けてお稽古する有様でした。剣舞教室は本来ならまず刀、扇の使い方、袴の着け方などを指導してから実技に移るのですが、今年は教室の開校が九月だったので十月十五日の前橋市民芸術祭まで六回しかないので、実技の方から先に行いました。今年の練習曲は「白虎隊」で昨年の「武田節」同様よく知られた唄なので「楽しい」と言う声も聞かれ、指導する私達も熱が入りました。芸術祭当日は都合の悪い人もいて六名の出演になりましたが、「白



虎隊は私共の心彰流では子供達の十八番になっていますが、大人の白虎隊も中々いいよ！」と言われ気を良くしました。芸術祭が終っても剣舞に興味をもって続けて下さる人がいて大変嬉しく思います。

高田 禎彰

民謡民舞

塩ビ管で尺八を作り演奏体験もできる講座の募集を広報まえばしで見て、夫婦で申込みました。会場は前橋プラザ元氣21、七月二十二日から十二名の参加、七回の授業がスタート。一回二回目は、塩ビ管で尺八を作り音の調律。尺八の歴史、呼吸法、指づかいロツレチリと五音の基本を学び音が出るまでが大変でしたが皆一生懸命ガンバリました。七回目の授業では「月」「チューリップ」「君が代」三味線の伴奏でミニ発表が行われました。

四曲吹ける人、途中まで息が出る人、指づかいについて



いった人、それぞれでしたが楽しく七回の授業が終了しました。九月十日昌賢学園まえばしホールにてこども芸能座が各部会から発表され「秋田人形甚句」「尾鷲節」「米節」「会津磐梯山」「草津湯もみ唄」など尺八、三味線、おはやしの伴奏で小学二年生から高校生達の美しい歌声、本格的な民謡を聞く事が出来ました。ふれあい体験者も四曲演奏しました。この体験や活動を通して次世代を担う子や孫達に伝統芸能など継承して行けますようご指導して下さいました先生関係者の皆様ありがとうございました。

和田 和子

詩吟

体験教室も五年目となりました。今年度の参加者は二十名と今までで一番多い人数で

賑やかな開講となりました。幼児から大人までと年齢差が大きく一緒に指導することに不安がありました。が初心者という事で同じ教本で基本から学習することにしました。

初めに童謡吟「兎と亀」で

岳心流の吟調と符付けを学習しました。子ども達は喜んですぐに憶えました。次に「偶成」や皆がよく耳にする吟目の二題を習いました。

学習の様子では、一人ずつ吟ずる「独吟」にも恥ずかしがらず積極的に吟ずる姿に熱意が感じられました。更に今回の体験教室で最も嬉しかったことは、体験後に入会を希望する人達の教室を立ち上げられたこと、幼少青年部にも五名の子ども達が入会してくれたことです。後に「子ども芸能座」や上毛岳心会四十一回大会に出演しました。



とても充実した体験教室でした。感謝の気持ちで一杯です。今後も体験事業が続きますように一層の努力をしたいと思っています。

倉持 心誠

八木節

七月から八月、日曜日に八木節をおそわりました。わたしはお兄ちゃんとお友だち2人といきました。わたしとお兄ちゃんとお友だちのお母さんは、わたしたちのおどりを見ていました。

場所は元氣21でやっていました。昔は、わたしとお兄ちゃんとお友だちはやっていませんでした。初めて行って見た時教室を見たら、すごく人数が少なくて、ビックリしました。

わたしは、さいしょわたしだけおどれなくて、おいてかれるんじゃないかと思ってしんぱいでした。でもこの予想は当たってしまいました。な

んだけど、ぜんぜんうまくいきません。わたしは、なんども



「できないからやめようかな」と、思いました。だけど、先生が、「だいじょうぶだいじょうぶ」と言ってはげましてくれました。だからわたしの心がうごいて「がんばるぞ」という気持ちがあふれました。練習の日、なん回もにがてなところを、練習したら、やっとうまくいきました。

ついに本番の日、わたしはすごくきんちょうしました。だけど、きちんとおどれました。一回まちがえてしまったけど、にがてだったところは、まちがえませんでした。よかったです。

庭屋 葵

連句

今年も例年通り、連句実作

部会だより

書道

書道部会の最大行事である前橋市民展覧会は、本年度は第五十二回を迎えました。

第五十一回展に引き続き、

三部門ごとに、昌賢学園まえばしホールで開催されました。

書道部門は、三月十五日

(木) から三月十八日(日)

までの四日間開催されました。

審査は、二月八日に、前橋プラザ元氣21に於て、美術、写真、書道部門とも一斉に行われました。

各部門、各会の審査結果を報告いたします。

●淡遠書道院(代表小林玉

泉)

▽前橋市文化協会長賞 伊藤啓子

▽朝日新聞社賞 西澤幸子

優作賞 中根たみ子

▽奨励賞(四名)▽臨江賞

酒井花江 無鑑査賞 北澤あ

い子

●艸玄会(代表荒井柊雲)

▽上毛新聞社賞 津久井瑛子

▽奨励賞(一名)

●書泉会(代表下谷洋子)

▽知事賞 綿貫智子▽商工会

議所会頭賞 立川一夫▽群馬

テレビ賞 中里智香▽奨励賞

(五名)

●翠書道会(代表村田容子)

▽東京新聞賞 長山美恵子▽

毎日新聞社賞 小野芳枝▽

優作賞 塩田光枝▽奨励賞

(十一名)

●三友社(代表飯嶋和子)

▽奨励賞(一名)

●春光会(代表 田村華舟)

▽市議会議長賞 井上智代子

▽優作賞 細川敦子▽奨励

賞(三名)

●三島書道会(代表三島安亀)

▽前橋市教育長賞 和田悦子

▽優作賞 栗原美枝子▽奨励

賞(一名)

●廣瀬会(代表大川清子)

▽群馬県教育振興会長賞 池

田智美▽奨励賞(一名)

●墨竹会(代表竹内照代)

▽産経新聞社賞 熊井弘子▽

企業メセナ群馬賞 田部井由

美 青木悦子▽奨励賞(七名)

●秀水會(代表大井美津江)

▽県教育長賞 山田恵子▽奨

励賞(五) 無鑑査賞 津田佑子

尚、授賞式は、三月十日(土)

前橋プ

ラザ元

氣21に

於て行

われ、

それぞ

れに賞

状が渡

されま



した。

授賞式後の懇親会は、今年からは全体(三部門)では行われませんが、写真・書道部門と合同で、前橋テルサの九階「つつじ」の間で、来賓をお招きし盛大に行いました。また、前橋市民文化協会の総合文化祭にも三年ぶりに参加しました。

大井美津江

美術

平成二十九年度趣味の彫塑工芸絵画展は、平成二十九年十一月十日(金)から十二日(日)の三日間、昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館)で開催されました。

美術部会は、絵画の「二科会群馬支部」「芸術倶楽部・えのぐの会」彫塑工芸の「もくめの会」「大胡陶芸クラブ」の四団体で構成され、それぞれ部門で活躍、活動の成果を発表しております。この趣味の彫塑工芸絵画展は、美術部会の全会員が同時に作品を展示する年一回の作品展であ

ります。



たが、もくめの会の仏像彫刻は、その質・量ともに素晴らしく、多くの来客より賛辞をいただき、大変良い作品展になりました。

また、今年も市内の中学生を対象として美術の「ふれあい作品づくり」を開催しました。参加者は和紙を使い、色紙に来年の干支「いぬ」のカラーージュを作りました。「芸術倶楽部・えのぐの会」の皆さんの指導のもと、可愛い犬のカラーージュを楽しんで作られ、大変良い体験学習になったと思います。

今回は「大胡陶芸クラブ」を紹介させていただきます。大胡陶芸倶楽部は、平成元年大胡町に誕生し、間もなく三十周年を迎えようとしており

ます。

今日までつつがなく来られたのも、大胡公民館のご支援と会員の「和」そして副会長、会計、焼成会計、焼成係、鍵借り係、釉薬係、行事係など担当の係の人がその役割を良く理解し協力があつたからと心から感謝しております。会員は平成二十九年四月一日現在二十八名で、内七割が女性です。

技術指導については、登坂和嗣先生（毎年日展に入選している）に毎月一日陶芸所においていただき、ご指導を仰いでおります。その他、毎年益子又は笠間の陶芸祭りに研修旅行を行い、楽しみながら良い作品を見る機会を設けております。

作品展については、趣味の彫塑工芸絵画展、総合文化祭、そして地域の文化祭等に出品するほか、県展、市民展等の公募展にも多くの会員が出品しております。今年は市民展に十二名が入選し、うち知事賞一名その他三名が入賞しました。

大胡陶芸倶楽部は、毎週水

曜日に大胡の陶芸作業場で陶芸に関する学習を行い、それぞれの個性や能力を伸ばす楽しいクラブです。入会希望者には、いつでも門戸を開いております。

山口 幹雄

写真

元気写真クラブは、平成二十九年九月十五日（金）から十八日（月）に第十回の写真展を、県庁・昭和庁舎の展示室にて開催した。また、平成三十年三月十六日（金）から十八日（日）に第十一回の写真展を同じく、県庁・昭和庁舎の展示室で行う予定である。写真展のテーマは自由で、風景、ネイチャー、動物、植物、人物、お祭り、スナップなど多岐にわたった。また、撮影地も県内だけでなく、日本各地で撮影されたものもあり、幅広いジャンルの作品の展示をすることができた。会場には、会員一同が各々、精力的に撮影した力作が並んだ。今

年度、記念すべき第十回目を迎えたわけだが、ありがたいことに、見に来てくださる方や毎年いらしてくれるリピーターの方も、回を重ねる毎にだんだんと増えてきている。当クラブは、結成当初、年に一回、写真展を開催していたが、もつと作品を発表する場を増やしたいという会員皆の希望により、数年前から年に二回の開催へと変更し、取り組んでいる。自分たちが撮影したものを発表することや見ていただく機会を設けることは重要であるし、そのことが会員の喜びや励みとなり、更なる作画活動への糧となっているように思う。そして、今回の第十一回目の写真展では、新たな試みとして、共通の

テーマを決め、テーマを題材とした作品の展示も行う予定である。

私たち元気写真クラブは年に二回の写真展をメインの活動とし、月に数回、撮影会や学習定例会を行っている。その他、前橋市民展や各種コンテストに応募し、入賞・入選を目指したり、前橋中央公民館での展示や総合文化祭の参加など、積極的に活動している。まだまだ成長段階であるが、写真の技術を高めようと会員同士が互いに切磋琢磨し、協力し合うことができていると思う。常に、会員全員で一緒にクラブを創り上げていくことを念頭に、皆で情報交換をしたり、意見を出し合ったり、クラブをより良いものにできるように、努めている。



る。

私たちが元気写真クラブは年に二回の写真展をメインの活動とし、月に数回、撮影会や学習定例会を行っている。その他、前橋市民展や各種コンテストに応募し、入賞・入選を目指したり、前橋中央公民館での展示や総合文化祭の参加など、積極的に活動している。まだまだ成長段階であるが、写真の技術を高めようと会員同士が互いに切磋琢磨し、協力し合うことができていると思う。常に、会員全員で一緒にクラブを創り上げていくことを念頭に、皆で情報交換をしたり、意見を出し合ったり、クラブをより良いものにできるように、努めている。

五十嵐絵美

映像

ドローンの出現で身近になってきた空撮。これまで撮影できなかった場所や高さから、動画や写真撮影を楽しめるホビーグッズ。大空に飛ばす楽しさにプラス「絶景写真」が自分の手で撮影できる。これまでもヘリタイプなど、空撮用のラジコンは存在していたが、多くは非常に高価なうえ機材が複雑で飛ばすためには高い操作スキルが必要でした。ところがコントローラ付で組立て不要のドローンと呼ばれるマルチコプター（回転翼機）の登場で一変、GPSやセンサーで自機の位置を補足でき自立飛行が可能なのです。ドローンの空撮はビデオ

愛好家にとつて憧れのテクニク。値段もビデオカメラ一台分



まで下がってきました。操縦は実に簡単、ホバーリング（空中停止）は送信機のレバーから指を離すだけ。自動的にその場に居続けます。画質も4K動画と驚くほど綺麗で、安定度も非常に高く、まるでビルの屋上から三脚で撮影したと言われ信じてしまうほどです。ただし、この機体は二〇〇gを超えるため無人航空機と呼ばれ、航空法の対象になります。実際に買うとなると面倒な規制があります。改正航空法を知らなければ飛ばすことも夢ではありません。これまでに模型のラジコン飛行機やヘリを飛ばすのに許可は不要でした。しかしドローンの普及でトラブルが増え航空法規制になったのです。対象となる機体は総重量（機体・バッテリーなど含む）二〇〇g以上の無人航空機です。二〇〇g以下は「おもちゃ」扱いとなるため届出不要。届出必要なのは、二〇〇m以上の高さ・人口集中地区の上空のほか、ルールとして日出から日没までに飛行

させ、目で見える範囲内で飛行させる。人や建物自動車など三〇m以上の距離を保ち、祭日や緑日など、人の集まる上空での飛行は禁止です。ともあれ飛ばす前にはドローンの保険に入っておきましょう。またおもちゃのドローンも届出の必要がないだけで禁止エリアやルールは同じです。航空法の適用外である二〇〇g未満のおもちゃの中にも動画撮影に使えるような製品があります。フルハイビジョンで価格も五万円程度、屋外の安定度はやや厳しいですが、ビデオ編集ソフトで手ブレ機能を働かせると十分実用性を感じられます。今まさに過渡期、高いレベルのルール作りが期待されます。

佐藤 利一

茶 道

平成二十九年度の実施事業は、二月二十日（月）定期総会（市総合福祉会館）、八月五日（土）～六日（日）茶道ふれあい体験教室（前橋プラ

ザ元気21）、八月十九日（土）前橋和の文化の集い（臨江閣）、十一月五日（日）県大茶会（太田社会教育総合センター）、十一月二十七日（月）行事の反省会そして毎月の市民の茶席（前橋プラザ元気21）が行われております。定期総会は、前年度の事業報告と反省そして会計報告、次年度の事業計画と予算が議事となりました。ふれあい体験教室は、平成十三年からスタートして、就学生を対象に毎年実施しております。今年は、江戸千家が担当して、歴史ある日本文化の茶道を体験して頂き、美味しいお菓子とお抹茶そしてお道具に興味を持って頂き、長い目でみた後継者の育成に寄与して頂ければと思います。県大茶会は、太田市で開催され、



前橋から一席（小堀遠州流）の釜を掛けさせて頂きました。県内の各流派の特徴ある内容で準備され、「違い」の勉強ができた記憶に残る一日でした。

明治十七年完成の臨江閣の一ヶ年に渡る改修工事後、臨江閣開館記念事業「まえばし和の文化の集い」には、三席（裏千家・大日本茶道学会・東阿部流）の釜を掛けさせて頂き、予想以上のお客様が入られました。念願でありました冷暖房が設置され、綺麗に掃き清められたお茶室で、記念茶会に適ったお道具組みに苦心したお話とお湯の温度にも留意されたお席は、充分楽しまれたことと思います。又、先生方の身に付いた所作とところの豊かさを感じられたことと思います。

年末反省会は、次回に役立つ意見が出て、食後のオカリナ演奏（前橋土笛の会）にところを洗われた一日でした。市民の茶席は、毎月十五日（二部例外あります）と定例化しており、担当する流派・

華 道

近藤 宗秀

先生も毎回違いますので、市民の皆様も多く参加されております。定期的にお見えになる人との会話も弾み、お道具拝見時には多くの質問もありました。茶道を通じて、茶道を守る若い人達の半歩前に出る活動と高齢社会となり、文化活動をしたいと思い、一緒に活動して頂くきっかけとなってくれますことを願っております。

華道部会では四月二十一日（金）から二十三日（日）までの三日間「前橋市民芸術祭華道展」を開催いたしました。十四流派の会員が流派を越えて協力し合い、多くのご来場者をお迎えする事ができました。会場構成は毎年工夫されていますが今年は通路も広くゆつたりとした空間に力作が並び、ご来場の皆様を楽しんでいただけたと思います。七月二日（日）には平成二十九年度総会が第二コミュニティ

で行な
われま
した。

総会終

了後は

アトラ

クショ

ンとし

て上原

梅弦先



生の津軽三味線を鑑賞しまし
た。独特の音色で津軽三味線
ならではの素朴な民謡の他、
ポピュラーな曲、アップテン
ポの烈しい曲等若々しい演奏
でたいへん楽しく聴かせてい
ただきました。八月十九日
(土)には今年改修工事が終
了した臨江閣でリニューアル
イベントがあり、各流派から
一作ずつ出品させていただき
ました。イベント会場となっ
た二階大広間には床の間と違
い棚に、別館会場に十作品が
展示されました。暑い時期で
したが多くの来場者で賑わっ
た一日でした。平成二十九
年度ふれあい体験教室は十一
月十一日(土)前橋プラザ元
21会場にて開催され、小原

と花芸安達流が担当しました。

小学生から一般を対象に毎年
開かれています。同じ花材で
もいける人によって様々な作
品になる面白さを体験し、い
けばなに興味を持っていただ
く良い機会になったのではな
いかと思います。十一月十七
日(金)から二十日(月)ま
で県庁南ホールと昭和庁舎で
開催された第六十八回群馬県
華道協会展には前橋からも多
数参加しました。前後期で二
四二作が展示されました。文
化財である昭和庁舎が使用さ
れるのは初めてでしたが、白
を基調とした明るい会場でた
いへん好評でした。その他年
間を通してJR前橋駅構内の
展示コーナーに飾り花を展示
しています。会員が交代で
行っておりませんが、いけてい
る時に声をかけてくださる方
や花の名前を訊ねる方もあり
ます。いけばなに関心を持つ
ていただく事は大きな喜びで
もあり私たちにとって大切な
経験となっています。いけば
なを通して少しでも社会に貢
献できるよう精進したいと思

います。

青柳 良寒

音 楽

私共、前橋市民音楽連盟に
は児童合唱団&オーケスト
ラ・女声合唱団・混声合唱
団・マンドリン楽団・オカリ
ナ合奏団等二〇団体が加盟し
ており、春季の「前橋市民音
楽祭」と秋季の前橋市民芸術
文化祭参加事業の「市民音楽
のつどい」の年二回の発表の
場があります。

平成二十九年度の「第七十
四回前橋市民音楽祭」は五月
二十八日に昌賢学園まえばし
ホール小ホールにて開催。

第一部は前橋市民音楽連盟
加盟団体の内十二団体が出演。
女声合唱・混声合唱・マンド
リン合奏など各団体が日頃の
練習の成果を発表し来場者の
皆様が多彩な演奏を楽しま
れました。各団体の演奏が始ま
る前と中盤には昨年度からの
試みである、発声練習を兼ね
た会場の全員参加の「みんな
で歌おう」コーナーでは「夏

の思い出」と「翼をください」
を出演者と観客が一体となっ
て楽しく歌う時間を持ちまし
た。

続く第二部では、前橋市出
身の新進気鋭の演奏家による
「フレッシユコンサート」が
行われました。

今回はピアノの岡村梨奈さ
んによりモーツァルト作曲
「きらきら星変奏曲」・シュー
マン作曲「ウィーンの謝肉祭
の道化芝居」幻想的情景」作
品二六より第一曲アレグロ」
を熱演。声楽(ソプラノ)の
下田典子さんはドニゼッティ
作曲「この心の光」・ザンド
ナイ作曲「セレナータ」・
ヴェルディ作曲「ときには牢
獄から離れて」を熱唱され、
若い演奏家たちの熱演には会
場全体
が引き
込まれ
今後の
お二人
の活躍
を応援
する様
に会場



が大きな拍手で包まれまし
た。

秋季の「第三十九回前橋市
民芸術祭市民音楽のつどい」
は十一月二十六日に昌賢学園
まえばしホール小ホールで開
催。

山本龍前橋市長と清水和夫
前橋文化協会会長のご臨席と
音楽芸術活動への激励のご挨拶を戴き、続いて連盟加盟団
体の内十二団体の演奏が始ま
りました。児童合唱・女声合
唱・混声合唱・オカリナ合奏
の各団体の日頃の成果が披露
され、会場全体が各団体の演
奏を堪能しました。今回は
「みんなで歌おう」コーナー
では「唱歌等を歌うのも良い
けれど、前橋には「前橋市の
歌 赤城嶺に」という良い歌
があるので、それを歌って普
及を図るのも良いのでは」と
いう意見があり、今回から
「赤城嶺に」を歌うことにな
りました。

近年は一般の方々の方々の来場も
多く、一般市民の皆様は各団
体の活動・演奏を聴いて頂き、
発表の合間に歌う「前橋市の

歌」を知って頂くのも大変意義のあることと思いました。

年二回の合同音楽祭ですが、日頃の練習の成果を発表する場があること、他の各種団体の演奏や新人演奏家の方々の演奏を聴くことで今後一層音楽レベルの向上を目指せることと願っております。

佐藤三恵子

バレエ

この度、発足当初から長年に渡りバレエ部会の部長として部会をまとめて来て下さいました小野千昭先生が、御自身のモダンバレエ教室を閉じられることとなり、部会長

の役も降りられることとなりました。前橋の、又県の洋舞

団体の
けん引
役とし
て力を
尽くし
ていた
だき、
人望も
厚く毎



年の市民芸術祭はもとより、国民文化祭が群馬で開催されました時には、上演に関わる様々な難題も明快に解決され、全国から集まられた関係者のもてなし等、県の舞踊関係者の代表として貢献されました。バレエ部会員一同この場をお借りして御礼と称賛の気持ちを

お伝えしたいと思います。私が後任を引き継ぐことになりましたことは、プレッシャーではありますが誰かがやらなくてはならない事と、能力不足は承知の上で重責を担うことといたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

これから増々の少子高齢化時代を迎え、バレエ部会としての展開をどう図っていくか、少しでも明るく楽しい道筋をつけていけるよう、会員の皆さんの力を結集していければと考えています。

又文化協会の本部が文化会館の中にできましたことは、会員にとりまして大変便利に情報も取り入れやすくなったと思います。会館主催の催し物も市民の希望や部会員の

方々等、幅広く意見を集めてより良い内容にしていきたいと思えます。

前橋ジュニアバレエ
四月一日（曾根恵子）
室賀バレエスクール
五月四日（室賀孝子）
白鳩バレエ
七月十四日（大胡しづ子）
氏家モダンダンス教室
九月十七日（氏家由佳）
金井憲子バレエアーツ
十月二十一日（金井憲子）
ぐんまバレエアタリエ
一月十二日 日本バレエ協会
群馬地区主催

以上昌賢学園まえばしホール
タンツシュレトイtoi
to i
四月一日（黒崎滋子）
吉岡文化センター
室賀 孝子

邦楽

「第四十回邦楽のつどい」は五月十四日（日）改修となつた昌賢学園まえばしホー

ル・前橋市民文化会館で開催された。開会式には、市長さん文化協会長さんのご臨席をいただき、市長さんからは「臨江閣も修理が終わろうとしており、文化活動の中心拠点としていただきたい。後進の指導育成もよろしく」と。

文化協会長さんからも「立派に改修整備を終え、協会の諸行事も充実される。二〇二〇年オリンピックにおける前橋のおもてなしも和の文化を中心に。市長さんと同様、伝承者の育成のためにも、ふれあい体験事業をよろしく」との挨拶があつた。

発表は、長唄「合方集」長唄ヤサエモン座、長唄「岸の柳」長唄千歳会、箏曲「春の夜」知音会、箏曲「万歳」下野戸垂弓等の会、箏曲「編曲元禄花見踊」みやび会、能楽「仕舞」杜若・養老・鶴段・玉葛 前橋宝生会、箏曲「編曲八千代獅子」桐の音会、箏曲「雨の詩・新高砂」白百合会、尺八「譚歌」竹音器、琵琶「西郷隆盛」錦心琉全国一水会、箏曲「八千代獅子」箏

曲桜風会、箏曲「せきれい・お宮とお寺・とおりゃんせ・数え唄」桐の音会であつた。

「まえばし和の文化のつどい」は、大改修を終えたばかりの臨江閣にて、八月十九日（土）「こけら落し」として開催された。午前中の記念講演・記念コンサートに続き、午後、二階大広間にて、大正琴、日本舞踊、民謡民舞、邦楽、居合道が披露された。

邦楽部会は「松竹梅」を演奏した。生田・山田の箏、三味線に長唄の三味線・唄に尺八の合奏という慣れぬ舞台であつたが、全員が気持ち一つになつた満足感あふれる演奏であつた。箏は川端光永・岩田知子・須藤幸子・富田恵理子・小川梨枝・立川洋子・高橋

松村路子・松枝光枝・岩田恵、三絃は下野戸垂弓・杵屋五



三魁・杵屋五三都・杵屋五三
樵・杵屋五三乃・杵屋五三
元・宮崎京子・新井美枝
子・杵屋五三蒼・内山信一、
鈴木創・伊佐木久美子、尺
八は青山松流・及川清流・
佐藤篁童・富宇加笙玲・牧
原箴童。

来年度の「邦楽のつどい」
は、昌賢学園まえばしホール
で五月六日(日)に開催する。
箏曲、琵琶、能楽等の出演を
予定しております。是非ご来
場下さい。

及川 清流

大正琴

暑い夏の中、臨江閣開館記
念事業として、平成二十九年
八月十九日(土)、まえばし
和の文化の集いが、大改修す
んだ県的重要文化財である歴
史的建物、臨江閣にて開催さ
れました。私達大正琴部会彌
城会かえで会も参加させてい
ただきました。臨江閣記念イ
ベントに参加して、久々に晴
れリニューアルのすんだ臨江
閣の前庭では、八木節で幕開

けとなった午前九時にテント
を張った式典会場で記念式典
が開催され、終わると臨江閣
二階の大広間では県文化財保
護審議会副会長の村田様によ
る講演「臨江閣の建築」と題
して話を聞いた。群馬県の初
代県令となった榊原素彦氏が
将来県に高位高官の皇太子が
来られた時待遇する家屋が必
要であるとの考えから、新築
することになったそうである。
茶室は臨江閣完成より二ヶ月
遅れで出来上がり、落成式は
一八八五年三月二十日盛大に
行われた由。この歴史ある臨
江閣を、私達も末永く見守り
時には利用させていただきた
いと思う。当日お茶室ではお
茶会が催され、私も是非一ふ
くいただきたいと思い列に並
びまし
たが参
加希望
者の多
さに断
念し、
改修し
た大広
間では



講演の後記念コンサートで五
人の声楽家による素晴らしい歌声
を聴くことが出来た。定員三
六〇人の大広間があふれんば
かりの人々でいっぱいとなっ
ていた。午後のイベントに出
ることになっている私達は急
いで準備にとりかかった次第
である。今年は建物の大規
模改修が完成した記念事業と
して一層盛大に行われ、鶴の
ご間の前では早朝から八木節
が賑やかに始まりプロの方々
のテールによる、大正ロマ
ンのコンサートがあり圧巻で
した。なかなか聞く機会もな
くすごい音量に圧倒され暫く
余韻が残りました。尚華道展
や茶席で賑やかでした。
始めはかえで会演奏、ロシ
ア民謡はともしび、カチュー
シャ、トロイカの三曲、彌城
会長唄小鍛冶古城南国土佐を
後にして演奏して会場の皆様
にも楽しんでいただき無事に
終了できて、尚第二十七回群
馬藤本会三味線おさらい会、
於大正琴部会でも指導者、友
情出演、日時平成二十九年六
月四日(日)前橋市文化会館

大ホール、第四十一回県民芸
術参加第二十八回琴城琉大正
琴さんけいの集い平成二十九
年十一月十七日(金)高崎市
文化会館大ホール友情出演彌
城会いたしました。前橋市文
化協会各皆様の協力の為あれ
ば、主催者の方に大変お世話
になりました。

岩井田みき子

日本舞踊

昨年度は昌賢学園まえばし
ホール(当時は前橋市民文化
会館)補強工事の為、大胡シャ
ンテで開催された「日本舞踊
のつどい」でしたが、本年度
は本拠地に会場を戻して十月
二十九日に小ホールにて開催
されました。出演者達はこの
日の舞台を務めるために何か
月も前から演目の稽古、かつ
ら合わせ、衣装選び、舞台で
の下ざらい(リハーサル)等
の準備をして参りました。
当日は、雨降りにもかかわらず
らず大勢のお客様にご来場頂
きました。やはり舞台はお客
様に観て頂いてなんぼ、お客

様が多いほど踊り甲斐もあり
ます。番組は次の通りでした。
「長唄 千代紙の花、童謡
さくらさくら」小野里琥珀朗、
小野里碧千花、川田優理、倉
林虹、齋藤秋華、佐藤真央、
鈴木夢叶、須田めい、西尾友
里子、宮内真央、山田幸花
「長唄 老松」花柳秀美冷
「長唄 雪傾城」永井昭江
「荻江 鐘の岬」花柳寿名華
「清元 花がたみ」若柳茂淳
「長唄 岸の柳」橘寿道「地
唄 八島」吉村千津「清元
神田祭」花柳美緑治「清元
卯の花」西川扇富珠。今回も
多種多様な演目が揃い出演者
の流派も様々で、お客様は飽
きることなくご覧になれたの
ではないでしょうか。また、
ふれあい体験日本舞踊教室の
生徒さ
ん達が
最初は
緊張し
た面持
ちで踊
り始め
だんだ
んと生



生き生きと踊っている様子を見て、自分達が踊りを始めたころの初々しい気持ち

を思い出しました。ヒップホップも良いですが子供達にはぜひ伝統芸能に触れて礼儀作法や美しい立ち振る舞い、

そして何より伝統芸能の楽しさを体験して頂きたいです。

開演の前に、九月に亡くなられた部会長の若柳吉駒先生に心の中で、先生どうか皆が無事舞台を務め終えられますよう見守っていてくださいとお願いました。皆無事に舞

終えてお客様達にも喜んで頂きました。きつと見守っていただくさつたのですね。

吟剣詩舞道

吉村 千津

平成二十九年十月十五日
(日) 前橋市民文化会館大胡分館「シャンテ」ホールにて

第四十回前橋市民芸術文化祭(吟剣詩舞)が開催されました。

窓の外はどんよりと今にも降りそうな空模様、会場は華やかな熱気でいっぱいでした。

定刻一時、式典が開会されました。始めに主管団体会長瀬間跡心先生のご挨拶、次に主催山本市長様(代理高梨ス

ポーツ競技部長様)、清水文化協会会長様よりご挨拶、ご祝辞いただきました。

いよいよ発表です。発表は各参加団体単位で行われます。

一、至心流剣舞前橋支部「剣舞二題」二、群馬吟道会「構成吟」三、祥刀流祥煌館「剣詩舞三題」が披露されました。

日頃の稽古の成果が発表され素晴らしいものでした。



四、ふれあい体験幼少青年の発表です。剣舞八題、吟詠三題、会場内に響く吟詠、凛とした立ち居振る舞い、表現の

正確さ、思わず身を乗り出して見入ってしまいました。会場より惜しめない拍手をいただきました。ご指導された先生方に感謝申し上げます。次の発表会が楽しみです。五、

翠扇流翠扇会「群舞」六、岳心流上毛岳心会「構成吟」七、心彰流愛吟詩導会「構成吟詠

四題」八、心彰流詩舞扇彰会「詩舞二題」九、心彰流剣舞

剣彰会「剣舞二題」吟詠剣舞詩舞は長年お稽古に励んでいるその表現が落ち着いて余裕

さえ感じられました。女子の会服も美しく楽しませていただきました。次に「華麗なる吟と舞」のコーナーです。こ

れは各団体より推薦された吟詠剣舞、詩舞のご披露です。

一題一題の演目に盛大な拍手が湧き上がり感動の音が会場内に広がりました。

最後に全員で「富士山」を大合吟し、まだ余韻が残っている会場に閉会の挨拶が有り

幕が下りました。

前島 麗洲

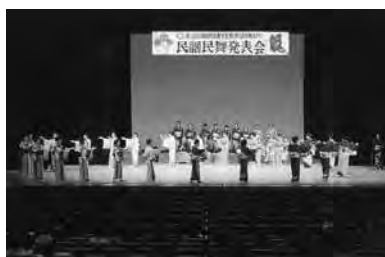
民謡民舞

今年度の総会が四月二十六日、前橋第三コミュニティにて行われ、今年度の議題四項目を、各会代表者の出席で審議し決定をする。

今年度は芸術文化祭民謡民舞部会第四十回となるので、昌賢学園まえばしホールの大ホールと決定しており、会場をにぎやかにするためにゲスト出演を迎えることが決まりその舞台構成、プログラム等の作成準備におわっていた。

記念大会当日七月二日、昌賢学園まえばしホールに於いて午前九時三十分正式典を、

文化協会会長、副市長よりご祝辞をいただき、十時より開演、



いつものように、オープニングに相応しく、前橋おどりを、生演奏で大勢の方々に、にぎやかに唄い踊っていただいた。

第一部「少年少女の部」十名十曲を声高らかに歌い踊り、会場いっぱい響きわたり入場者の心をいやすてくれました。第二部は会員の発表で全

国の民謡民舞を四十五曲を唄に演奏に踊りに楽しく出演していただきました。第三部は、特別ゲストコーナーで、津軽

三味線全国大会優勝者兄弟阿部金三郎、銀三郎、そして安藤龍正の安来節、津軽手踊、

銭太鼓の名手によるパフォーマンスと津軽三味線のすばらしい演奏で、会場の皆さんの

気持ちをやさしく下さしました。おかげ様にて会場も八十%ほど入場者がありました。

四十回記念発表会に相応しい発表会になって良かったです。

来年の発表会も大勢の入場者に来ていただけるように頑張っていきたいと思っています。文化協会主催のふれあい体験事業、民謡民舞会も参加す

る。「塩ビ管で尺八を作って演奏しよう」と言うことで、前橋市の広報にて募集していただき、二十四名の受講者があり、全七回の受講で七月二十二日より毎土曜日、午前九時より十一時まで、中央公民館、元氣21の四一三アトリエ室にて行った。二回を尺八製作し、以後五回は、初歩の音出し、そしてやさしい曲を練習し、九月十日、会館主催の子供芸能祭に十数名の受講者も参加し演奏することが出来ました。

そして十月七日前橋まつりに、踊り部会の各社中も参加し立川町通りを此処狭しと踊りまくりました。

今年度最後の事業、前橋総合文化祭に出演する。

鈴木二千六

八木節

上毛かるたの「そ」は「そろいの支度で八木節音頭」の「そ」ですね。八木節は私達にとって身近で親しみやすい郷土芸能の一つです。

前橋八木節協会は二十六の八木節団体で構成されています。各団体はそれぞれの地区で八木節を楽しみ、各イベントに参加し盛り上げ、伝承に向けた活動しております。

前橋八木節協会としては元旦のニューイヤーズ伝を始める桜花見、前橋マラソン応援、大胡祇園祭り、前橋祭り、群馬フラワーパーク、前橋農業祭りや他にも数々のイベントに参加して盛り上げています。

八木節は全国的に知名度が高い我が郷土の誇る伝統芸能です。八木節をやってみたいと思う方は、町内の八木節団体か前橋八木節協会まで、ご連絡下さい。また毎年七月に「ふれあい教室」を開催、八木節に興味のある方に広く体験して頂いています。協会の八木節練習は毎月第二、四水曜日の夜七時からコミュニティセンターで行っています。お気軽に顔を出してください。

八木節のルーツをたどると越後から伝わった新保大寺



くずしに樽叩きの技法をと入れ、て盆踊歌にしたのが木崎音頭であり、この歌が隣接の栃木県八木宿（現、足利市御厨町）に流れ、堀込源太が、源太節として一九一四年に日本蓄音機商会でレコーディングして世に出し、八木節として日本全国で盛んに歌われるようになりました。

その魅力は陽気で軽快なお囃子と、長編の物語を歌う（語る）音頭、その調べに合わせたあでやかで流れるような踊りにあると言えます。

お囃子は樽、笛、鉦、タイコ、太鼓小鼓と種類が多く、大小高低のバランスが良くてどなたでもやってみたいと思う楽器の一つはあるはず。音頭の美声は八木節の顔です。美声の音頭には何度聞いても聞き惚れる位です。その美声

に乗せた語りは国定忠治を始め人情味ある歌詞が多く群馬県人の気質に合っています。美声の名手である堀込源太があちこちの村の盆踊に引つ張りだこになったという話には大いにうなずけます。

踊りは流れる様な美しい動きがあり、昔から改良を重ねてきた蓄積が伺えます。特に手踊りは覚えておきたい踊りです。老若男女が手踊りで輪になって踊り盛り上がる時には八木節ならではの高揚感と胸の高鳴りを感じます。

では、次はお祭り会場で、お目にかかるがオーイサネ♪

鷲尾 英彦

郷土芸能

平成二十九年十一月十八日

（土）に、前橋市郷土芸能大会を、昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）小ホールにて開催しました。今年大会で四十五回目を数える今年の公演団体は、市内の本会加盟団体より、植野稲荷神社太々神楽（神楽・植野稲荷神

社太々神楽保存会）・江田鏡神社の獅子舞（獅子舞・江田町獅子舞保存会）・住吉ばやし（お囃子・住吉町一丁目おはやし保存会）・前橋鳶木遣り纏振り（古謡・前橋鳶木文化保存会「華粋会」）・裸みこし（語り物等・南町二丁目自治会・水神社氏子会）の五部門五団体が出演しました。さらに、近隣市町村からの招待公演として、高崎市倉賀野町の倉賀野神社祭祀舞（倉賀野神社祭祀舞保存会）の皆様に出演いただき、あわせて六つの公演が繰り広げられました。

倉賀野神社祭祀舞の皆様が公演されました「豊栄舞」では、小学四年生とは思えないとても気品のある舞姫で、四人の動きが寸分の狂いもなく、優雅に祭祀舞を披露していた



できました。また、保存会長様のお話で興味深かったのは、神社のお祭りが平日に当たっても、地元小中学校に子供たちが伝統行事に参加できるように理解いただいているのとこのことでした。これは、同じ郷土芸能に携わる私たちにとっても参考となるところがありました。倉賀野神社祭祀舞保存会の皆様におかれましては、大会へのご協力誠にありがとうございました。

一方、市内から出演の各団体も、大会参加にあたり、それぞれの特色を活かし、公演にあわせた工夫を凝らして、舞台を大いに盛り上げていただきました。出演に当たっては、ステージ上での公演であることによる場所や時間の制約があり、また、いつもと違った雰囲気の中での公演は、大きな緊張を伴う面もあったかもしれません。しかし、このような経験も糧にしていたいただき、今後の伝統継承に努めていただければと思います。

大会の最後には、もう一つの恒例行事となりました抽選

会も行われ、豪華な景品の当選を願い、大いに盛り上がりました。郷土芸能の振興のため本大会にご協賛いただきました市内十九の企業・団体様におかれましては、ご協力誠にありがとうございました。

また、会場には多くの皆様にご来場いただき、各公演の終了後には盛大な拍手をいただきました。ぜひ、次回の大会にも足を運んでいただけるよう、これからも努力したいと思っています。

今後とも地域文化の振興や、郷土芸能の保存・継承を目的として、活動を進めて参りたいと思います。

谷 晃仁（前橋市郷土芸能連絡協議会副会長）

歴史

第二十一回歴史講演会を六月三日（土）において前橋市総合教育プラザを会場に前橋学センター長の手島仁氏を講師に迎え「前橋の製糸業について」と題して開催致しました。

当日は多くの受講者が参加したなか、手島仁講師の講演が始まり、前橋の製糸業は従来座繰りで糸を紡いでいたが、明治三年藩営前橋製糸所をスイス人技師ミューラーの指導のもと、器械製糸所を速水堅曹・深沢雄象などの人々によつて設立された。（日本で最初の器械製糸所となる）

このことについて、手島仁講師が洋式藩営前橋製糸所の歴史的意義について、大きく次の項目で話された。

一・器械製糸所設立についてはスイス人ミューラーの指導の下で設立した、同時にイギリスの商社が共同経営を申し入れたが断った、これは外国資本の進入をさけ、日本産業の自立を図った。

（スイス人技師ミューラーを四月で解雇）

二・速水堅曹や工女らが外



来技術を熱心に学び習得し外国人技術者に頼らず自立した。

三・全国各地からの伝習希望者を迎え器械製糸技術を習得させたことにより全国的普及の原点となった。

四・全国からやってきた工女が技術を身に付け郷土に帰り、製糸所設立や技術の指導に当たつて普及に努めた。

それに加えて製糸業に携わつて前橋の発展に貢献された、下村善太郎・市川良平・竹内勝蔵・江原芳平・勝山宗二郎・善三郎の功績について講和をいただいた。

以上の講和に二一ページにおよぶ資料をつくられて解かりやすく詳細に話されたので受講された方々皆な熱心に拝聴しておりました。

前橋器械製糸所設立により日本の近代産業の祖となり、全国製糸産業発展の技術指導者を育て、日本産業確立の一躍を図った。

また、前橋においても有力な人々が育ち前橋発展に大きく貢献したことを知り、受講

者皆さんが知識を高める事ができました。

その他恒例の見学会を四月十六日に群馬埋蔵文化財調査事業団において渋川金井東浦遺跡を中心に講和受け、五世紀末ないし六世紀はじめの榛名山二ツ岳の噴火によつて埋まったことにより、胃を着た人骨・女性の人骨や当時の人が歩いた足跡など当時の状況がカプセルされていた内容の講和を受け、続いて展示室に移動して発掘された貴重な文化財を見学しました。

その後箕輪城址に移動、五名の説明員もと五班に分かれて、日本百名城の一つ箕輪城址の見学、本丸・二の丸・三の丸などの郭と城堀がこのり難攻不落の城であることの認識を深めました。

十二月二十日に行った見学会は群馬県立歴史博物館と玉村八幡宮・例幣使街道の見学会・群馬県立歴史博物館では深澤敦仁教育普及係長の説明を頂き常設館・古代・中世・近世・近現代と見学し群馬県において貴重な遺跡・文化財

の宝庫であることを認識し玉村八幡宮で宮司の説明を受け例幣使街道を現地説明員の説明を受けながら見学しました。

吉澤 信明

短歌

第五十二回前橋市民短歌大会は、平成二十九年六月十一日（日）、前橋市中央公民館前橋プラザ元気21・五階学習室で開催された。

昨年はここ数年の参加者減少に歯止めをかけられた。今年はさらなる参加者増を願って周知活動に力を注いだ。その効果が目に見える形となり、昨年の四十六人から五十四人の参加者を得ることが出来た。

短歌人口の減少は全国的なものであることを考へると、油断は



禁物と役員一同、気を引きしめ、次なる手当を考えている。

開会式では、山本龍前橋市長、清水和夫前橋文化協会長のご臨席をたまり、「詩のまち前橋の文化の発展に力を注いでもらいたい」とのお言葉をいただいた。

続いての総会では、議長を井田会長が務めて、事業報告、会計報告、事業計画案、予算案が審議され、承認された。

当日のメインである短歌大会は、計画時の希望的目標でもあった五十人越えの出詠者を実現し、五十四人による歌会となった。

歌会では、参加者各人が一首ずつ前もって提出した作品を無記名にて印刷した詠草集を基に行われた。各人が六首を選歌する互選方式。その集計された得点数の多い、上位十作品に対して合評がなされた。

講師は井田金次郎、内田民之、登坂喜三郎の三先生が担当し、厳しくも温かい批評をして下さった。結社やサークルを越えた勉強のできた一日

であった。

上位入賞者は次の通り。

市長賞 長島さち子

はだしにて桑を摘みたる日も遠く老い増す足は夏も冷たし

市議会議長賞 中島てるえ

年年に歩中小さくなりたるか今日も歩道を追ひ越され行く

教育長賞 平田 經子

きらきらと沼の面はひと方に水皺を寄せて風を見せをり

文化協会賞 須田はつ枝

息子の車見送りて佇つ夕闇にほのかに匂ふ卵の花白し

上毛新聞社賞 松下 昭代

一生を浮きつ沈みつ水槽に生きる金魚と睦みて暮らす

俳句・川柳との合同作品展

は、平成二十九年十一月十七日（金）～十九日（日）、改装となった昌賢学園まえばし

ホール（市民文化会館）大展示ホールで行われた。

平山 勇

第四

配布いたしました。

俳句

第三十七回前橋市民俳句大会が六月二十五日（日）に中央公民館ホールにおいて開催

されました。恒例の募集句も例年通りの応募数があり、十四人の選考委員の厳正なる審査の結果、市長賞を始めとする各賞が選出されました。又、当日の参加者全員による俳句会も行われ最優秀賞、優秀賞が互選の結果選ばれました。

第一回まえばし小中学生俳句大会を開催。その中で小中学生による俳句実作講座を開催し、十名の参加がありそれぞれに作品を創り発表しました。

又、大会での作品応募には約三千五百通の応募がありました。選考委員による点数制に審査方法により最優秀賞、各一人優秀賞各二人の入賞が決定しました。入賞作品集を製作し、入賞者と、各学校に配布いたしました。

第四

十回短

歌・俳

句・川

柳合同

作品展



が十一月十七日（金）から十九日（日）まで前橋市民文化会館において開催されました。展示数も昨年並みでした。連句の作品として前橋市民俳句大会の「前句付」の作品と、日頃連句会で巻き上げた作品を展示。

初めて小中学生の入賞作品も展示することができ、来場の方の目を引いておりました。

佐藤 ヒナ

川柳

当部会活動の中心は、何と言っても自己練磨の場であり親睦を深め合う場ともなる、月例会である。毎月第一水曜日九時三十分より、生涯学習セン

ターで行われている。句会での樂しみの一つは、選者に

選者に



よる披露で、一句一句を耳から味わえる事にある。

参加ご希望の方は、気楽に寿々夢代表に「一報頂きたい。」

第三十七回前橋川柳大会が

五月二十日(土)昌賢学園まえばしホールで開催された。

清水和夫文化協会会長からの一句に弾みを頂き、県内外から参加した八十四名が、渾身の一句を競い合った。

上位受賞者と天位作は次の通りである。

市長賞 織田 和子

市議会議長賞 西潟賢一郎

教育長賞 上村 脩

文化協会長賞 勢藤 潤

川柳会長賞 中西 隆雄

「輝く」 丸山 都庵選

転移なし心の霧が晴れ上がる

「曲がる」 織田 和子

丁字路はさすらい人を迷わせる

「土」 横田 朝子

故郷の土が都会の棘を抜く

「流れる」 織田 和子

原名 幸雄選

家族会議流れが変わる子の意見

「素足」 大島 祐子

浮世絵に学ぶ浴衣と下駄の夏

「敏腕」 横田 朝子

田中寿々夢選

円空の鉈に祈りの汗をかく

「旨い」 木口 孝子

梶野 正二選

極上の蜜で酔わせる天下り

織田 和子

特別課題「街」大島祐子謝選

街に灯が点る日夢に待つ仮設

横田 朝子

第四十回前橋市民芸術文化

祭が十一月十七日、十九日まで昌賢学園まえばしホールで開催された。

今年、短歌・俳句・川柳

だけの展示となりさみしく、

来年はぜひ他の部会と一緒に

賑やかな開催を期待したい。

NHK学園主催の、第三回

伊香保川柳大会が六月二日

(金) ホテル天坊で、当部会

有志協力のもと開催された。

俳人・陶芸家の木暮陶句郎氏

と柳人島田駈舟氏のユーモア

あふれる対談もあり盛り上

がった。

末尾に、少し若手の会員は

代表に連れられ、県内外の大

会に参加し、川柳をより深め

ようと活動している事を、ご

報告したい。

三村 悦子

漢 詩

私達の部会は、漢詩と言う

名に些か恐れをなして、躊躇

するの、入会者が少ないの

が悩みの種です。しかし私は

この会に入会してから、①漢

語辞書②詩文③書等の言葉や

文字に触れ、少しずつ漢詩の

素晴らしさが詠る様になって

まいりました。

本会は、月一回の勉強会の

他①総会②研修会③発表会の

三つの年間行事があります。

今年度の研修会は平成二十

九年十月十九日、前橋総合福

祉会館に於て「女性と漢詩」

のテーマで開催いたしました。

講師は、当会の勉強会を指導

している、小井土松風、芳泉

(御夫婦)の小井土芳泉先生

でした。現代で活躍している

漢詩作者のうち女性に焦点をあてた内容の講演でした。

講演で取り上げた中から次の一詩を!!

湖上暮景 名古屋市 木本

久子

驟雨一過涼氣生

湖雲散盡水天晴

渡頭入夜無人影

只有遊船載月橫

読み下し

驟雨(しゅうう)一過(いつか)涼氣(りやうき)生(しょう)

湖雲(こくう)散盡(さんじん)水天(すいてん)

渡頭(わとう)入夜(にゅうや)無人(むじん)影(えい)

只有(ただ)遊船(ゆうせん)載(の)月(つき)横(よこ)

晴(は)る

渡頭(わとう)夜(よ)に入(い)って

人影(じんえい)無(な)し

只(ただ)遊船(ゆうせん)の月(つき)を載(の)せて横(よこ)

たわる有(あ)るのみ

平成二十六年全国漢詩大

会宮城県大会文部科学大賞

講演会は、会員の他、一般の

方、書

道会の

方、吟

詠会の

方等、

多数参

加され

ての半



た。

③の発表会は、平成三十年

一月の予定です。「漢詩と書

と吟詠」と題し、会員の自作

の七言絶句を発表します。

吟詠の出来る方は吟じ舞台

にて発表、書は会場にパネル

展示、(色紙、掛軸、額、等)

来訪者に観賞して頂くという

三者一体の共演です。是非一

度、熱気あふれるホールの雰

囲気を味わって欲しいと思い

ます。日本人だから漢詩が作

れるのです。漢詩の名作を読

んでいると、心地よいリズム

にのせて詠われている「おも

い」に感動し、自分でも作っ

てみたくなります。私達には、

漢詩愛好のDNAが組み込ま

れている様です。先ず一歩踏

み出して下さい。楽しみ乍ら

漢字パズルのつもりで!!わず

かなルールを修得するだけで

す。

当会は、毎月第三金曜日、

午後一時三十分～四時、第三

コミュニティにて勉強会を、

行っています。一度お気軽に、

見学に来て下さい。お待ちし

て居ります。TEL〇二七一

二六八―五五六六 小野里 迄。

小野里春子

演 劇

今年度の演目はシェイクスピア原作「まなつのよのゆめ」です。初演は大分まえのことです。それなりに面白かった作品です。ここで面白いというのは興味深いと言いかえていいかも知れません。しかし再演したい欲求はおきませんでした。なぜでしょうか、ギリシヤ悲劇公演後の様なスッキリした感覚は全く感じず曖昧さだけが残る不思議なものでした。にもかかわらず再演を企画したのはやはり逃げては居られない想いが有ったからなのです。



方の翻訳家、演出家、そして役者はそれなりに威儀を正し挙げ句、おじけづいてそれぞれわするのが通例かも知れませんが。翻訳家の吉岡三郎はその著作の中で「言語そのものに分け入ろうとすればする程、日本語から遠く離れその意味さえかすれてゆく。また凡そ納得のゆく日本人の感覚が許す範囲の翻訳を心がけると、本来の言語の意味とかい離してゆく……。」と。きつとそうに違いない。ならば遠い異国の小心者の演出家はどう向きあえば良いのだろうか。現代のどこそこ生きる私達にめざすことのできるものは何か。何を表現できるのか、どのようにに表情をつくることができるのか。このあたりを徹底するほかはないようなのである。このことは観客の存在を椅子の数だけ不安な面持ちで注意を払っても経験上うまくいかないことと同義なのです。

演出家はそのイメージする範囲を超えた演出は不可能であるし、役者は同じ様に自分のイメージの範囲内でしか演じることではないのです。広い意味での舞台デザイン、芝居をどのような方向にもつてゆこうとするかは演出の仕事ですし、役者はその中で何よりも台詞からどこまで役づくりが可能か、言ってみればこれだけのことなのです。一言の台詞は何通りにも読みとれるし、からむ役者によってさらに変化を求められるからなのです。

一週間後に控えた開演を前に舞台に関わる全ての者がどれだけの仕事をこなせるか楽しみでもあるし不安でもあるのです。芝居の質はいつでも観客の背中が物語りますからどん帳が上がると演出は舞台でなく、数多くの背中を見る事になるのです。

月田 一郎

自然趣味

自然趣味盆栽展は十月二十日から二十二日まで昌賢学園まえばしホール大展示ホールで行いました。

生憎の悪天候続きでしたが昨年ホールの改修工事のため一年間、開催を休んだため、久しぶりの展示会で出品者三十五名、張り切って会場作りにも加わっていただきました。また、協会職員始めホール職員の方々の親切なご指導により無事終了することができました。



一部の金持ちの道楽といわれた盆栽もそのような方々の努力で大衆化し、永い時間をかけて立派な作品を作り上げてきました。

しかし、最近では趣味の多様化により、若い人達の盆栽への興味が薄れ、後継者不足になつてしまつています。

一方、世界的には盆栽の良さが認められ、盆栽を楽しむ人々が増加して日本から盆栽が輸出されています。

江戸時代からの永い歴史と日本文化の盆栽がある意味、危機に陥いつていると言えるかも知れません。

さて、今回の展示品を観てみましょう。

さすがに五十年もの盆栽展の方々の作品です。松は松らしく、真柏の自然を乗り越えて生きる姿、芸術的な皐月などなど日々丹精こめた作品です。長い間、慈しみ育てた姿が表れている、頭の下げるばかりの作品である。

来年もゆつくり鑑賞したいと思う方々の展示に繋いでいけるよう精進したいと思う会

員達です。

葛田 浩

民族舞踊

十一月十九日(日) フラフェスティバル第八回の舞台発表会の昌賢学園まえばしホール(小ホール)で行われました。関係者の皆様には大変お世話になりました。感謝致します。私達十二グループ約二〇〇余名の会員がおります。年一回集合しての舞台発表ですが、子供からシニアまで年齢層も広いです。フラは年齢を問わず踊れるという良い所が皆さんに支持され人気のある事の一つと思われま



照明もそれぞれのフラに合せて変えて頂き、踊り手も思い思いの美しい衣装で、明るいハワイアン風の曲に合せてのフラは大変美しく、会場と舞台

には温かく、和やかな空気が流れている様な雰囲気になってくれました。又会場からは応援の声も聞かれ一層盛り上がりました。十一月の外は寒かったですが、会場は常に暖かい空気と笑顔がありました。又、フラは私達の生活に活力をくれます。私達の今年の集大成となりますフラフェスティバルでしたが全四十三曲滞りなく終了する事が出来ましたのは役員の協力と連携がスムーズに行われた事到大変良かったですと思います。この後各グループはそれぞれの場所で開催します。そして又次の発表会では一年間の活動の成果を持ち寄って、少しでも成長したフラを皆さんに見て頂きたいと思ひます。

この会が少しでも長く続きます。次回の発表会には一グループの会員が加わり十

三グループになります。一段と活気の有る会になると思ひます。

吉野 美子

居合道

平成二十九年八月十九日「まえばし和の文化の集い」が開催された。会場は一〇〇

年を経た前橋を代表する歴史的建造物「臨江閣」である。改修を終えた臨江閣でオープニング式典がお囃子よろしく八木節の音頭でにぎやかに、そして盛大にその幕が開き、多くのお客様が来場の中で展示部門、舞台部門が発表された。

部会としてはじめての前橋市文化協会の事業に参加した一日でした。それも一〇〇年を経た歴史的建築遺産「臨江閣」での舞台部門出演ということもあり、部会にとって歴史的といひます「晴れ」の出演となりました。

当日は「居合とは」と称し、(一)居合の歴史(二)居合道の意義(三)居合道の精神

とその目的についてお話しさせていただき、続いて演武に入った。演目は「英信流」抜刀法からの技より始め、正座の部、立膝の部を披露し、「英信流抜刀法奥の形で」締めくくった。会場からたくさんの方の拍手をいただき、部会員の安堵と観客への感謝の瞬間でした。

居合はもと、攻防の術を体得することから始まった剣の技である。武技の修行ではあるが「形より心に入り技に依りて心を養う」こと、正しき刀法と身体運用の心がけ「心剣一如動静一貫」の妙を悟ることであると説かれて

いる。その極意は「常に鞘の中に勝ちを含み刀を抜かずして天地万物と和する」ところにある。

現代における修業の目的



においても、「定められたる武技を通じて、剛健な身体を鍛錬し、己が精神の錬磨をなす」ことにある。その根元は、「礼讓慈愛に富む質実剛健の精神を養う」ことにあり、天から与えられた曇りの無い人間の本性を磨く処世の道にほかならないものである。

多くの観客の前でこの居合を披露することができ、どちらかと言えば今まで親しみのなかった武道を知っていたことができた一日となったと自負しております。また、この出演にさきがけ、稽古にいつそうの真剣みを帯びたことも収穫のひとつと考えております。

終わりにこの「まえばし和の文化の集い」にご尽力いただいた役員、スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

総合文化祭は平成三十年二月二十五日市民文化会館にて開催され、多くの皆様にお越しいただきました。

吉田 努

支部 だより

大胡支部

今年度より支部長を拝命して、先人の多くの方々にも心より敬意と感謝をするとともに、文化活動においては、特に地域文化を守り次世代へと繋ぐことにより、地域の発展に寄与したいと考えています。

また、文化協会は、人々との関わりの中で生活に潤いを持たせ、「生きる力」の源となる場所でありたいと考えています。

なお、文化協会を退会し、公民館利用登録を行う団体が増えている現状を考えると、今後の文化協会存続に危機感を感じ得るとともに、如何にして時代の流れを受け止め、大胡支部の活動に活かしていくかが当面の大きな課題である

ろうと考えています。

さて、平成二十九年年度の大胡地区文化祭は、「総合展示」「芸能祭」「音楽祭」「茶道会」「囲碁大会」「将棋大会」「大胡の歴史にちよつと親しむ史跡めぐり」の各部門に分かれて、十月二十七日から十一月五日まで、延べ九日間に亘つて実施されました。

つきましては、出演者・来場者合わせて三千三百人以上もの参加があり、多くの関係者の皆様のご支援ご協力のもと、成功裡に大胡地区文化祭を終えることができましたことにあらためてお礼申し上げます。

特に、作品
出展、舞台出演は、文化協会
会会員をはじめ



め、たくさんの園児や児童・生徒、公民館利用団体のほかに一般参加があり、日頃の成果を発表しました。

文化祭の中で、参加者一人ひとりが、心豊かで生き甲斐を感じて人生を送られていることや、地域文化の発展、生涯学習の振興のために、日々の精神の大切さに学び、切磋琢磨しながら大胡地区の文化の向上と発展に貢献する姿が窺えました。

各部門の会場設営にあたり、参加団体の皆様のご協力により大変スムーズに会場設営ができましたことに厚くお礼申し上げます。

その中でも特に、広い総合展示会場での重い机の運搬や大量のパネル設置など、会場設営にご尽力いただきました赤城少年院の院生と先生方には、心よりお礼を申し上げます。

今後も、より多くの地域の皆様の参加をいただき、より一層充実した大胡地区文化祭が開催できますよう努力したいと思っております。

阿部 淑美

宮城支部

文化協会の最大イベント宮城地区の文化祭が十一月四、五日の両日秋空の下、展示部門、芸能部門と盛大に開催されました。この二日間の為に参加者は日々精進し集大成としての作品・芸能と感動するものばかりでした。俳句会、陶芸部、地区のデイサーブス、宮城中学校文化部の作品には目を引くものが数多くありました。そして初めて宮城小学校の絵画と書道の作品の展示も協力していただきました。

芸能部では八木節・和太鼓・民謡・創作ダンス・カラオケ・コーラスと盛り沢山の演出に圧倒されました。なかでも可愛かったのはすくすくスマイルのキッズ太鼓とダンス、一歳〜六歳の就学前の子供たちが手作りの段ボールの太鼓でリズムに合わせたたたいてる姿に、ほほえましさを感じました。子供たちの姿に将来の明るさを感じると共に無限の可能性を感じました。模

擬店では作業所のパン

ジー、若葉学園のクッキーが好評でした。あつ

という間の二日間でしたが、自治会、部会長、文化協会役員、事務局の何回もの会議を重ね半年前より準備に取りかかりました。町民一人ひとりの絆が文化祭を有意義なものにしてくれました。欲を言えどもつとつと多くの参加者があればと切に願わずにはいられませんでした。心配する事もなく無事終える事が出来感謝です。 霜田きよい

粕川支部

粕川茶道クラブ

当クラブは会員六名で、月一回お点前のお稽古を実施し、茶道の向上に励んでいます。発足当時は、十名以上の会員がいましたが、高齢化に伴い減少しました。

季節により茶花や、使用する道具や、お点前が変わるの



で、お互いにお点前の確認をしながら、毎回楽しくお稽古をしています。当クラブの対外的な活動としては、小学生体験教室で、日本の伝統文化、「茶道を学ぶ」を指導しています。一年生から六年生までの男女児童が、十月四日、十月十一日の二日間で四十四名が参加しました。講師のお点前を見学の後、お辞儀の仕方、お菓子のいただき方、飲み方の説明をしながら講師の点てたお茶を飲みました。

足がしびれる、お菓子は小さくて、一口サイズだけど、楊子で切って食べるんですか、などと言いながら、短時間の体験でしたが、普段の生活では経験できないので楽しかったなどの感想を聞きます。

また毎年十一月、第一日曜日に、粕川地区産業文化祭が盛大に開催されます。屋外では、いろいろなイベントが実施され、屋内の体育館では、保育園児が



ら一般の方までの多くの作品が展示され、とても賑やかです。茶道クラブは体育館の一角で呈茶サービスを行います。会場が体育館なので、お点前をする私達もお客様も椅子に腰かけての立礼です。どなたでも気軽に茶席に入って、お抹茶を飲んでもらう形式です。当クラブが文化祭に参加するようになって十年以上になります、呈茶サービスを始めた頃は、席入りする人も少なく、飲み方がわからないからと遠慮する方には、作法は気にしないで飲んで下さいと、声かけをしました。地区内の施設の入所者もボランティアの方々の付き添いで、車椅子でお茶席に入ります。年々お客様が多くなり、今年はおよそ三百人が席入りしました。

抹茶は苦いものと思ってたけど飲んだらおいしかった、家では抹茶を飲む機会がないので、一年に一回の文化祭でお菓子とお茶を飲めることを楽しみにしているなどの声が聞かれます。楽しみに待っている人がいると私達も励みに

なります。これからも、こうした活動を続けていきたいと思えます。茶道体験をした小学生が、茶の湯に親しむきっかけとなり将来、茶道を継承してくれることを願っています。

新井 啓子

富士見支部

富士見支部では、会員の皆様や富士見公民館のご協力により、計画していた平成二十九年年度行事を無事に実施することが出来ました。

九月三日(日)第二十六回納涼の集い。第一部が富士見中学校吹奏楽部の演奏で、観客を巻き込む熱演でした。第二部はハワイアンバンド、ピコ・アイランダーズの演奏とフラダンスのコラボでした。

十月二十一日(土)文化巡り研修旅行は四十二名の参加者を得て、川越方面の視察研修を行いました。鉄道博物館、川越蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁、喜多院などを巡る楽しく充実した研修旅行でした。

十月二十八日(土)文化講演会。

演題「幕府の運命・日本の運命」



ー小栗上野介の日本改造ー

講師 村上泰賢氏(小栗上野介隠棲の寺 東善寺住職)。

徳川埋蔵金伝説の影響で小栗上野介の名を知る人は多いが、ほとんどの人はそれ以上は知らない。幕末に横須賀製鉄(造船)所を建設するなど、日本近代工学の先駆けとなった小栗上野介の実像にせまる充実した講演会でした。参加者約八十名。

第四十三回富士見地区文化祭が富士見公民館と併設の老人福祉センターを会場として盛大に開催されました。

展示部門では、十一月十二日、二十三日に、美術展、写真展、書道展、手芸展、郷土資料展、古美術展が行われ、短歌会、俳句会、囲碁大会、将棋大会、呈茶席、芸能発表会も盛大に実施されました。

芸能発表会では、民謡、フ

ラダンス、フォークダンス、社交ダンス、舞踊、太極拳、エアロビクス、民謡、カラオケ、童謡唱歌、ハーモニカ、八木節、尺八、和太鼓などの競演が繰り広げられました。

特別出演の富士見保育所幼児による歌と和太鼓演奏には、盛大な拍手を頂きました。

★一月以降の行事

一月二十七日(土)

ニューイヤークンサート。会場 富士見公民館ホール。演奏 群馬シティフィルハーモニーオーケストラ。指揮 佐藤寿一氏。曲目 ブラームス…

ハンガリア舞曲、大学祝典序曲 オッフェンバッハ…序曲「天国と地獄」 ヨハンシュトラウス…ワルツ「春の声」その他。

二月一日・八日・十五日・二十二日(二月各週末曜日)

スポーツ吹き矢体験教室。講師 日本スポーツ吹き矢協会 前橋中央支部から派遣。

三月末日。前橋市文化協会 富士見支部の広報誌「ふじみ文化」三十七号を発行。富士見地区全家庭に配布します。

宇田 克巳

平成29年度役員等名簿

名誉会長 山本 龍 (市長)

会長 清水 和夫

副会長 小野 千昭 江原満里子 田中寿々夢 阿部 淑美
坂本 實 宇田 克巳 大崎 衛
書記 渡辺 正義 及川 清流 井野 誠一 荻野 昇
霜田きよい

会計 西川扇富珠 原 与志美 白石 博巳

常任理事 大井美津江 (書道) 郷緒 慶三 (美術) 藤生 武男 (写真)
佐藤 利一 (映像) 田村 理光 (華道) 清水 雪瑠 (茶道)
徳光 秀夫 (音楽) 室賀 孝子 (バレエ) 須藤 幸子 (邦楽)
岩井田みき子 (大正琴) 若柳 糸駒 (日本舞踊) 瀬間 踪心 (吟剣詩舞道)
伊藤 養吉 (民謡民舞) 阿佐美菊男 (八木節) 谷 晃仁 (郷土芸能)
中川 春雄 (歴史) 平山 勇 (短歌) 今井 妙 (俳句)
三村 悦子 (川柳) 阿部 心靡 (漢詩) 小井戸恵子 (演劇)
嶋田 浩 (自然趣味) 吉野 美子 (民族舞踊) 吉田 努 (居合道)
伊藤ツヤ子 (大胡支部) 大崎 正氣 (宮城支部) 諸星 徳治 (粕川支部)
石関 雅幸 (富士見支部) 倉林 薫 (前橋市)
理事 竹内 照代 (書道) 山口 幹雄 (美術) 寺澤 昌佑 (写真)
馬場 秀夫 (映像) 長谷川春生 (華道) 高橋 宗美 (茶道)
石原いく代 (音楽) 曾根 恵子 (バレエ) 福島 常童 (邦楽)
山本登志子 (大正琴) 若柳 茂駒 (日本舞踊) 高山 龍聖 (吟剣詩舞道)
原田 廣子 (民謡民舞) 町田 光男 (八木節) 富澤 好克 (郷土芸能)
石綿 正明 (歴史) 岡田 正子 (短歌) 工藤 弘子 (俳句)
大島 祐子 (川柳) 片倉 優水 (漢詩) 日田 一郎 (演劇)
田辺 敏弘 (自然趣味) 新井扶美子 (民族舞踊) 山本 明夫 (居合道)
小野 桂一 (大胡支部) 阿久澤孝子 (宮城支部) 松村喜美子 (粕川支部)
高橋 昭夫 (富士見支部) 須藤 義則 (前橋市)
監事 神保 心祈 (吟剣詩舞道) 鈴木二千六 (民謡民舞) 中村百合子 (大胡支部)

顧問 曾我 孝之 (前橋商工会議所会頭) 桜井 直紀 (元教育長)
中澤 充裕 (元教育長) 倉嶋 敬明 (副市長)
佐藤 博之 (前教育長) 塩崎 政江 (教育長)
齋藤 一雄 (株式会社群馬銀行代表取締役頭取) 吉永 國光 (株式会社東和銀行代表取締役頭取)
北村 幸雄 (上毛新聞社代表取締役社長) 武井 和夫 (群馬テレビ株式会社代表取締役社長)
石田 哲博 (株式会社エフエム群馬代表取締役社長) 田中 義 (公益社団法人前橋市医師会会長)
田口 章太 (一般社団法人前橋市歯科医師会会長) 前原 節雄 (J A前橋市代表理事組合長)
阿久澤和夫 (前橋ユネスコ協会会長)
参与 中島 克人 (前橋商工会議所専務理事) 小林 卓郎 (前橋商工会議所情報メディア部会長)
高梨 春雄 (前橋市文化スポーツ観光部長)
事務局 間庭 淳 (一般財団法人前橋市まちづくり公社文化部長) 伊藤 光正 (前橋市民文化会館館長)
山崎 和昭 (前橋市民文化会館副館長) 萩原ますみ (前橋市民文化会館主幹)
倉林 薫 (前橋市文化国際課長) 須藤 義則 (前橋市文化国際課長補佐(兼)文化国際係長)
塩澤 典茂 (前橋市文化国際課文化国際係副主幹)

平成29年度賛助会員名簿 (50音順)

法人・企業等	代 表	法人・企業等	代 表
赤 城 フ ー ズ 株 式 会 社	遠山 昌子	一般社団法人前橋市歯科医師会	田口 章太
朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社	石川 靖	一般財団法人前橋市まちづくり公社	静 知明
医療法人 五十嵐皮膚科医院	五十嵐直弥	前 橋 商 工 会 議 所	曾我 孝之
一 線 美 術 両 毛 支 部	高橋留三郎	モ リ タ 印 刷 工 業 株 式 会 社	堤 佳代子
株 式 会 社 エ フ エ ム 群 馬	石田 哲博	株 式 会 社 ユ ニ バ ー ス サ イ ン	伊藤 佳明
カ ネ コ 種 苗 株 式 会 社	金子 昌彦	医 療 法 人 吉 野 医 院	吉野 昭男
関 東 精 機 株 式 会 社	鮎澤 恭一	若 宮 内 科	山田 邦子
株 式 会 社 群 馬 銀 行	齋藤 一雄	前 橋 茶 道 会	
群馬総合ガードシステム株式会社	川崎 弘	前 橋 八 木 節 協 会	阿佐美菊男
群 馬 テ レ ビ 株 式 会 社	武井 和夫	居 合 道 部 会	
群 馬 日 野 自 動 車 株 式 会 社	中村 丙午	書 泉 会	下谷 洋子
株 式 会 社 ジ ー シ ー シ ー	松下 弘明	長 唄 千 歳 会	杵屋彌三右衛門
医療法人社団翠彩会 下田内科医院	下田 隆也	前 橋 市 長	山本 龍
株 式 会 社 上 毛 新 聞 社	北村 幸雄	前 橋 市 副 市 長	倉嶋 敬明
上 毛 電 業 株 式 会 社	狩野 明	前橋市教育委員会教育長	塩崎 政江
昭 和 造 園 土 木 株 式 会 社	石橋 照夫		(敬称略)
株 式 会 社 東 和 銀 行	吉永 國光		
中 屋 商 事 株 式 会 社	曾我 孝之		
株式会社ノブプランニング	町田 栄信		
公益社団法人前橋市医師会	田中 義		

個 人

阿部 淑美	小野 千昭	鈴木二千六	福島 常童
石原いく代	片倉 優水	瀬間 踪心	三島 安亀
伊藤ツヤ子	金井 憲子	曾根 恵子	室賀 孝子
岩井田みき子	金子 侑司	田中寿々夢	矢崎多喜子
氏家 由佳	川端 光永	樽井 哲	柳井 和子
江原満里子	小井戸恵子	中村百合子	若柳 糸駒
及川 清流	郷緒 慶三	蜂巢 恵月	若柳 茂駒
大崎 衛	志塚 心彰	花柳寿名順	渡辺 正義
大井美津江	清水 和夫	西川扇富珠	(敬称略)
荻野 昇	霜田きよい	馬場 秀夫	
小野 桂一	神保 心祈	平井 暁貫	

平成30年度 第41回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

No.	事業名(部門)	期 日	時 間	会 場
1	華道展	4月21日(土)～ 4月22日(日)	9:50～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大展示ホール
2	邦楽のつどい	5月6日(日)	13:00～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 小ホール
3	大茶会	5月13日(日)	10:00～	臨江閣 公園茶室
4	市民川柳大会	5月26日(土)	13:40～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 第5会議室
5	歴史講演会	6月2日(土)	13:30～	第三コミュニティセンターホール
6	市民短歌大会	6月10日(日)	10:00～	中央公民館501・502学習室
7	市民俳句大会	6月24日(日)	13:00～	中央公民館ホール
8	ビデオ作品発表会	7月1日(日)	13:30～	群馬会館ホール
9	民謡民舞発表会	7月8日(日)	9:40～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大ホール
10	八木節のつどい	9月9日(日)	10:00～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大ホール
11	吟剣詩舞道発表会	10月14日(日)	13:00～	前橋市民文化会館 大胡分館ホール
12	自然趣味盆栽展	10月19日(金)～ 10月21日(日)	9:00～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大展示ホール
13	日本舞踊のつどい	10月21日(日)	13:00～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 小ホール
14	趣味の彫塑工芸絵画展	11月9日(金)～ 11月11日(日)	9:00～ 17:00	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大展示ホール
15	短歌・俳句・川柳合同作品展	11月17日(土)～ 11月18日(日)	9:00～ 17:00	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大展示ホール
16	漢詩発表会	11月17日(土)	14:00～	第三コミュニティセンターホール
17	前橋バレエフェスティバル	11月18日(日)	13:00～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大ホール
18	市民音楽のつどい	11月25日(日)	12:30～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 小ホール
19	フラ フェスティバル	12月2日(日)	12:30～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 小ホール
20	郷土芸能大会	12月8日(土)	13:00～	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 小ホール
21	演劇発表会	12月16日(日)	未定 (2回公演予定)	昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 小ホール
22	市民展覧会(美術) (写真) (書道)	1月～3月		
23	総合文化祭	舞台:31年1月27日(日) 展示:31年1月26(土)～27日(日)		昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 大ホール 大・小展示ホール

*上記日程は平成30年3月31日現在のものです。都合により、日程等が変更になる場合があります。

平成29年度 第52回市民展覧会入賞者一覧 (敬称略)

書道部門

第一部 漢字

市民展賞 曹全碑臨書 市文化協会長賞 費冠卿詩 朝日新聞社賞 顧非熊詩 エフエム群馬賞 優作賞 銭起詩 柳宗元詩 高詠詩 七言絶句 白居易詩 王羲之集字聖教序節臨	大場 政夫 伊藤 啓子 西澤 幸子 大澤まさ江 中根たみ子 田村 行雄 関本 菜実 立見しげ子 羽鳥 宏 大谷 京子 松村 信枝 木嶋 弘子 野上 花歩 角田津也子 酒井 花江 北澤あい子 綿貫 智子	市議会議長賞 ともすれば 市教育長賞 なるたきの 前橋商工会議所会頭賞 青丹よし 群馬テレビ賞 ときはなる 東京新聞賞 毎日新聞社賞 心あらば 群馬県教育振興会長賞 心にも 久かたの 優作賞 ゆたかなる 優作賞 笠なしに 奨励賞 吹きくれば 春山の 奨励賞 五月雨 奨励賞 うぐひすの 奨励賞 まだ白き 奨励賞 光さす 奨励賞 寒き夜を 奨励賞 梅の花 奨励賞 うぐひすの 奨励賞 冬くさの 奨励賞 はる山に	井上智代子 和田 悦子 立川 一夫 中里 智香 長山美恵子 小野 芳枝 池田 智美 細川 敦子 塩田 光枝 栗原美枝子 岡部 恭子 中村シゲ子 阿久澤たか代 鹿田世志江 松本 たみ 松田ち代子 貝塚 春子 堀口 勝美 樋口 須加 温井 任子 宮崎 満代
--	--	--	--

奨励賞 五月雨の 奨励賞 久方の 奨励賞 ねのひしに 奨励賞 谷ふかみ 奨励賞 わがやどに 奨励賞 今日の身と 奨励賞 若菜つむ 奨励賞 あしの葉に 奨励賞 わがこころ 奨励賞 くさのうゑに 臨江賞 山ざくら 無鑑査賞 元氣よく	三宅 君子 高橋 悦子 佐藤智恵子 斉藤ミチ子 滝沢夕紀子 石崎 克子 山賀 明美 塚田 英子 大澤 亜弥 根岸 孝子 野村 人名 長岡 美佳
---	--

奨励賞 塵 奨励賞 貫之うた 奨励賞 鮮 奨励賞 とり(つだみきこ詞) 奨励賞 動 奨励賞 道元のうた 奨励賞 柿本人麻呂歌 奨励賞 睦 奨励賞 「道」 奨励賞 笑 奨励賞 詩 奨励賞 蕾 奨励賞 石川啄木の歌 臨江賞 あい子句 無鑑査賞 覚	倉林 和子 薊 友紀子 中曽根静子 奈良 美鈴 村田 峰紀 斉藤 光江 庭山智恵子 青木規久繪 平林 淨子 遠藤やよい 田部井隆通 松島 学 小林 真依 白石 悦子 津田 佑子
--	--

美術部門

第一部 日本画

市長賞 秋の爽気 市教育長賞 広瀬川河畔 群馬県教育振興会長賞 冬ごもり 優作賞 山百合の小径 優作賞 五箇山の里 奨励賞 おいしい空気の前で 奨励賞 水ぬるむ	大庭 節子 門倉 徹也 山田 光代 大谷 房子 矢島美恵子 桑原 容子 鎌塚 忠夫
---	---

第二部 洋画

市民展賞 刻まれた記憶 市議会議長賞 変遷 市文化協会長賞 インザエア 前橋商工会議所会頭賞 南瓜 上毛新聞社賞 君の景色 群馬テレビ賞 荒木牧場の牛 朝日新聞社賞 アルルの赤い扉 産経新聞社賞 廃業しました 毎日新聞社賞 声とだえて 読売新聞社賞 空へ エフエム群馬賞 夏の日 企業メセナ群馬賞 まなざし 優作賞 青春 優作賞 廃材の構図 優作賞 初夏の森 優作賞 婦人像 優作賞 17・夏 優作賞 希望への道 優作賞 野の片隅 優作賞 芽生え	中村 秋男 藤尾 関子 吉永智恵子 坪松 房子 瀧野 泉 池田あつみ 丸山 和子 熊谷江里子 池田 登 網野 宏 山本 竜也 榎 勇三 津久井里奈 石川 朱音 齋藤 雅行 横室 敏夫 八木原 操 岩崎 捷男 藤野 春雄 原田 衣 小林 百花 二瓶 敏子 岡安 彪
--	---

優作賞	黒倉	長井 正美	奨励賞	みんな仲良く	田村 榮子
優作賞	AYUMI	堀 智子	奨励賞	塩の道一隅	鈴木 安則
優作賞	マンダラネットワークII	加藤 淳一	奨励賞	MINEVA レストラン	加藤 松雄
佳作賞	前橋刑務所	猪俣みさを	奨励賞	仲よし	奈良 啓子
奨励賞	覚満淵寂寥	星野 昇司	奨励賞	赤鳥神社	阿部 好司
奨励賞	中欧回想3	小澤 茂彦	奨励賞	コラージュアート	工藤 トヨ
奨励賞	工場の一隅	勝又 茂樹	奨励賞	内戦を経てーモスタルー	渋川貴美子
柿		新井須美江	奨励賞	百日草とアザミ	湯浅 玲子
奨励賞	晩夏のいろ	大野 昭子	奨励賞	静寂の中で	佐藤 淑子
奨励賞	真夏の帰り道	林 優真	奨励賞	吹割の滝	小保方 敬
奨励賞	夕暮れの港	山崎 碧子	奨励賞	オアシス	長瀬 卓司
杜		浅野 空	奨励賞	休息	檜谷 安紀
奨励賞	見つめて	久永 宏子	奨励賞	霊峰の大天狗	都丸 丈松
奨励賞	西土堂	池尾 優璃	奨励賞	赤城山盛夏の頃	南雲 勇
奨励賞	nostalgia	寺田 玲乃	奨励賞	花 2012	古島 美樹
猫のロンド		岩井 明徳	奨励賞	冬の妙義	高橋 丈夫
奨励賞	廃窯	大沢 州司	奨励賞	神様ありがとう	星野 昭和
奨励賞	木漏れ日	高橋野々花	臨江賞	朔太郎宅土蔵	吉田 ひさ
奨励賞	傾く	松本 奈々	無鑑査賞	初夏の榛名山	大関 恭一
まっすぐ前をみつめて		鳥山 純子	日常	立川町・春雷	栗原 千草
奨励賞	薫風	鈴木 信義	第三部 彫刻・工芸		前田 俊一
梅雨の晴れ間		鈴木その江	知事賞		
三月の想い		瀬下 房子	楽園		田村 聰江

市民展52回 市民展賞作品

市民展賞

市文化協会会長賞

書道



「曹全碑臨書」
大場政夫さん

書道



「費冠卿詩」
伊藤啓子さん

美術



「刻まれた記憶」
坪松房子さん

美術



「イン ザ エア」
池田あつみさん

写真



「視線」
吉田希望さん

写真



「秋暉」
斉藤誠爾さん

お知らせ

このたび下記の方々が栄誉を受けました。ここに紹介しお祝い申し上げます。今後、益々のご活躍を祈念いたします。(敬称略)

※群馬県総合表彰

高橋 宗美 (茶道部会)
井田金次郎 (短歌部会)

※群馬県功労者賞

清水 雪瑠 (茶道部会)

※群馬県文化奨励賞

阿部 淑美 (本部：副会長)
小野 桂一 (大胡支部・将棋クラブ)
林 登志雄 (八木節部会)

※前橋市教育文化功労者賞

中嶋 俊明 (八木節部会)
渡邊 正義 (美術部会)

※前橋市社会教育活動功労者表彰

原 與志美 (本部：会計)
工藤 弘子 (俳句部会)
伊藤ツヤ子 (大胡支部：副支部長)

新入会員紹介 ～平成28年度・29年度加入～

大正琴部会 かえで会 代表者 女屋 京子 (H29.3～)
居合道部会 代表者 吉田 努 (H29.3～)
富士見支部 横室歌舞伎 代表者 金井 清二 (H29.4～)
民族舞踊部会
チェリーブロッサム 代表者 青木 泉 (H29.8～)
大胡支部
童謡「淑声会」 代表者 阿部 淑美 (H29.8～)
大胡歴史研究会 代表者 松本 浩一 (H29.8～)

将棋部会
前橋将棋部 代表者 石原 隆行 (H29.10～)
八木節部会
みはる会 代表者 神沢 守造 (H29.8～)
ふれあい29 代表者 中島 俊明 (H29.12～)

編集後記

比刀祢六十四号をお届け致します。

市民文化会館の耐震工事も終りました。市民芸術祭をはじめとし、様々な行事を楽しく開催できる様になりました。

今回の比刀祢は、市教育委員会教育長の塩崎政江先生より「子どもたちの学校文化のかたち」と題した、玉稿をいただき巻頭言として飾りました。

会報編集委員に俳句部会の今井妙さんを選出致しましたのでよろしくお願い致します。

諸星秋雄

会報(比刀祢)編集委員
委員長 田中寿々夢
副委員長 山口タツ子
委員 諸星秋雄 三村悦子
今井 妙

比刀祢 (六十四号)

平成三十年三月二十三日 印刷
平成三十年三月三十一日 発行
発行 前橋市文化協会
編集 会報(比刀祢)編集委員会
前橋市南町三十一番六二一
電話〇二七一二一四三二二

※新年度より電話〇二七一二八九一六五二一に変更します。

印刷 朝日印刷工業株式会社



ツミタデントウ

おトクな資産運用はココから。

2018年1月

つみたてNISA スタート!

ニッポンの資産形成を応援する
つみたてNISAとは...

年40万円×20年間

つまり...

最大800万円の

つみたて投資から得られた
譲渡益・分配金にかかる

税金がゼロになる

おトクな制度!



はじめるなら!
つみたてNISA適格ファンド



はじめやすい

★購入時手数料ゼロ



つづけやすい

★低水準のコスト
(信託報酬)



※ツミタデントウは三菱 UFJ 国際投信株式会社の積立投資応援キャラクターです。

※本広告は東和銀行が作成したものです。

ふ れ あ い バ ン ク

TOWA 東和銀行

株式会社東和銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第60号
加入協会：日本証券業協会